各種社會問題之研究

満洲之社會

乙丑五月號

第參卷第九號

満洲社會事業研究會

一資本金　壹億圓

一積立金　八千五拾萬圓

本店　横濱

支店　東京、大阪、神戸、名古屋、長崎、下關、倫敦、漢堡、里昂、紐育、桑港、羅府、布哇、シドニー、新嘉坡、カルカッタ、シャトル、スウラバヤ、スマラン、ブエノスアイルス、バタビヤ、リオデジャネイロ、西貢、孟買、蘭貢、馬尼剌、香港、上海、漢口、廣東、青島、濟南、天津、京北、牛莊

出張所　(營口)、奉天、開原、長春、哈爾賓、浦鹽斯德

大連市大山通一番地

横濱正金銀行大連支店

電話＝代表番號三一六一番

海關取扱所四七六二番

宿直専用六〇一五番

滿洲之社會||第參卷第九號（大正十四年五月發行）

資本金　八千萬圓
積立金　千百五拾八萬圓

一般銀行業務、外國爲替並日本銀行代理店事務を取扱申候
尚銀行勘定取引も精々御便宜に御取扱可申候

大連市西通二番地

朝鮮銀行大連支店

電話（代表番號八一〇二一 宿直室用五七三二一）番
振替貯金大連一〇〇〇〇番

本店　京城

支店出張所

内地　東京　大阪東區及西區　神戸　下關
朝鮮　釜山　大邱　仁川　平壤　鎭南浦　元山　群山　木浦　清津　會寧
滿洲　旅順　營口　遼陽　奉天舊市街及新市街　鐵嶺　開原　鄭家屯　長春　四平街
　　　吉林　安東縣　龍井村　哈爾賓　傅家甸
支那　上海　天津　青島　濟南
露領　浦潮　亞港（樺太）
米國　紐育

右ノ外倫敦、巴里其他内外樞要ノ各地ニ爲替取引先有之候

一、資本金參千萬圓

一、一般銀行業務並ニ大連市金庫事務ヲ取扱申候

大連市伊勢町六十九番地

株式會社 滿洲銀行

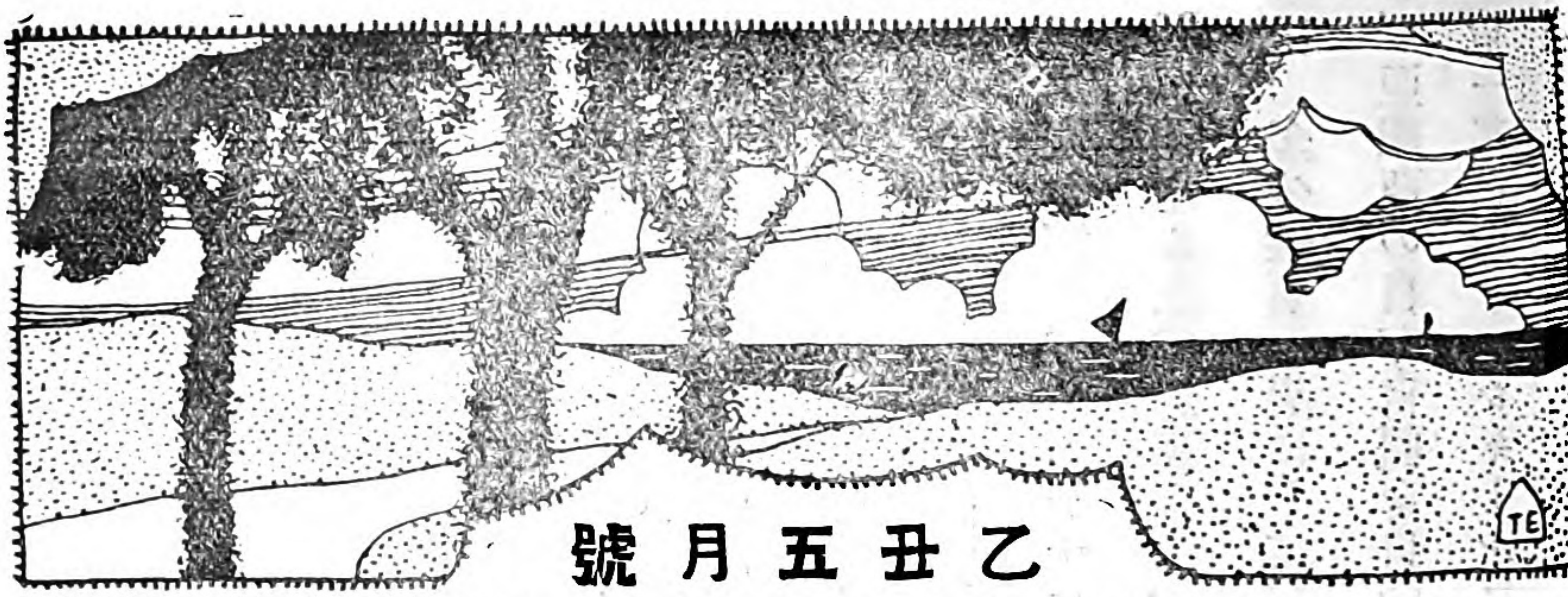
電話四一二一番

振替貯金大連三三〇番

支店所在地

大連市山縣通、同小崗子、沙河口
金州、普蘭店、貔子窩、瓦房店、鞍山、奉天、
奉天小西關、撫順、本溪湖、安東縣、安東縣
興隆街、新義州、鐵嶺、公主嶺、長春、吉林

右ノ外內地、朝鮮、滿洲各樞要ノ地ニ爲替取引先有之候



赤化不可恐

露西亞に前代未聞の大革命が行はれしは其の國情と民性の然らしむる所なり。而して其の革命は帝政を共和とし、特權階級を打破して勞農本位の社會主義的ソベート聯邦制とせるもの、且その社會主義は共產制に非ずして集產制といふ可きものなり。之を赤化と云ふは、赤衞軍に依りて徹底的に遂行せしが故なるも、他の國と他の民族とが徒らに此の赤化を恐怖するは謂はれなき事なり。餘りに赤化を恐怖するは己れの小と怯を告白するに過ぎず。

他國及び他國民はイザ知らず、萬邦無比の國體を有する我が日本、一種特別の國民魂を有する我が日本人は、斷じて赤化に侵さるゝ虞なし。思想界混亂の今日、多少の注意を要すべきも、我が新附民族たる朝鮮人の一部に對する以外、餘りに重大視するには當らざる事なり。露西亞革命の過激なりしが爲め、ボリシエヴイズムを過激主義と譯し、その眞相を究めずして赤化の聲を大にせば、枯尾花を幽靈と視、或は自己の影に驚くの愚に陷るべし。

先づその眞相を究めよ。社會主義とは何ぞ、その集團主義、その共產主義とは何ぞ、一通り之を知り、而して我が國體と民性とに訴へて其の是非を決せよ。ソーシアリズムの思想は既に我國にも瀰蔓し居り、それが政治惡と經濟惡とに依りて激成挑發せらる點あるを以て、赤化を怖るゝよりも、寧ろ此の方面に深甚の注意を拂はざる可らず。赤化何するものぞ、政治惡と經濟惡とを除去せば、我が國體と民性とは露國の如き革命を呼ぶものに非ず。



亞細亞主義の眞諦

山田芙峰

亞細亞主義なるものは、何人の創説に成るか、それは不分明だが、歐洲大戰後に起つた彼の民族自決主義に刺戟されて提唱されたもので有ることは、之を認知するに難くない。民族自決主義は當時の米國大統領ウキルソン氏に依つて唱はられ、斯くしてポーランド民族はポーランド國を、チエッコ●スロヴアキア民族はチエッコ●スロヴアキア國を、ユーゴー●スラーブ民族はユーゴー●スラーブ國を建設し、世界の漂流民族たるユデア人も郷土パレスチナにユデア國を建設しやうとした。茲に於てか、亞細亞民族の間にも亞細亞の自存自疆を欲する念慮が高まり、それが亞細亞主義の聲となつて現はれたのである。亞細亞主義と民族自決主義とは、多少性質を異にして居るけれども、自ら相共通した所もある。

亞細亞の自存自疆を目的とする亞細亞主義を最も早く叫び出したのはアラビアの回敎族である。此の民族の一部を成すバシキール民族は、同民族だけの小さな共和國を建設したが、彼等はこれで滿足せず、露國に在る約三千萬人の回敎族を糾合團結し、他の亞細亞民族と提携して、地上に大亞細亞主義を實現せしめたい

と云ふ燃ゆるが如き熱望を持つてゐた。そして大正十年中、この民族の代表者クルバンガリエフ、ヌルダンキーレ、ビックメーエフ、其他八名は滿洲及び朝鮮を經由して日本に赴いた。次いでアラビア王族エルコヂリー・シエイッバシア公爵一行も同樣の希望を抱いて日本に行つた。此の當時私は大連商業學校講堂において開かれた大陸雄辯會第二回講演會で『亞細亞主義の民族運動』と題して卑見を述べた事がある。此のアラビア回敎族の亞細亞主義は、聲のみで實がなく、其後殆んど火の消えたやうに成つてしまつたが、一時は非常な熱度を持つて居たのである。我々日本人の間にも多少の共鳴者があつた。

越えて大正十三年、洋行歸りの支那の新人はチャイナレヴュー誌上に英文を以て『亞細亞主義』と題する長論文を掲げ、その要旨は上田恭輔氏が飜譯して之を滿洲日日新聞紙上に發表した。次いで米國の上下兩院が日本移民排斥法案を可決するや、日支兩國人間に白人横暴を叫ぶものが多くなり、それと同時に亞細亞主義の聲が高まり、此の大連でも同年五月四日日華市民大會を開いて辯者は盛んに亞細亞主義と亞細亞聯盟の必要を説いた。斯うして日支兩國人の間にも亞細亞主義の氣勢が上つて來たのである。物故した現代支那の理想的政治家孫文氏は、早くも此の氣運を觀て取り、例の五權三民主義の外に大亞主義を唱へ出し、我が神戸において大亞主義の堂々たる意見を發表した。印度の詩聖タゴール翁の如きも、亞細亞主義には先づ日本と支那と印度との握手が必要であると説き、併せて西洋の機械的物質文明に對して東洋の人格的精神文化を顯揚せねばならぬと言つた。アラビア回敎族の先聲した亞細亞主義は、此くの如く日本、支那、印度の各亞

細亞民族にも認められて來たが、今の處は勿論聲だけに過ぎない。

一體亞細亞主義とは何んなもの乎、何んな事をするのが亞細亞主義の目的である乎、と云ふと、種々の解說があるに相違ない。今そのデフィニーションとでも云ふべきものを私の考へで申すならば、謂ゆる亞細亞主義なるものは『亞細亞人自らの力を以て亞細亞の文化を進め、亞細亞民族の實力を强め、而して亞細亞の自存自疆を圖る』ことで、それが亞細亞主義の理想であり、目的であり、眞諦であると信ずる。亞細亞主義は全米主義や、モンロー主義や、白濠主義の如き排他的、利己的のものではない。民族自決主義とも異なつた所がある。我々亞細亞人は能く之を知つて亞細亞主義を提唱すべきである。

往昔の亞細亞は文化においても實力においても優れてゐた。印度からは大聖釋迦牟尼佛を出し、支那からは哲人老子、聖人孔子、賢人孟子、又は王陽明などを出し、蒙古からは世界を震駭せしめた稀世の大英雄兒成吉斯汗を出した。然るに今日の亞細亞は非常に衰へた。先づ支那を看よ、滿淸朝廷を倒して中華民國となつた現在の支那は、表面上獨立の國家となつて居るけれども、兵權、財權、政權を一手に握つた武人が封建時代の諸侯のやうに各地に割據して互に勢力爭ひを事とし、統一の業今に成らず、國家としての實質も權威も備はらぬと云ふ狀態ではない乎。印度は如何、此處も相當に大きな土地で、人口も多いが、英國の一種特別の植民地となつてしまつて、ガンジー一派の自立運動があるにも拘らず、僅少なる英國の軍隊と官吏によつて抑へ付けられて居るではない乎。土耳其も今やオットマン帝國時代の面影見るに由なく、歐洲大戰後は

一段と凋落し、ケマルパシアのアンゴラ政府に依つて僅に餘喘を保つて居るといふ有樣ではない乎。爾餘の暹羅、安南、緬甸、波斯、西藏、蒙古等に至つては殆んどその存在すら疑はれると云ふ次第である。亞細亞黃色人種の人口は歐米白人種のそれよりも多く、量においては優つて居るが、質において甚だしく劣り、支那漢民族の如く個性的に強い者があるとしても、其の民族の文化と實力とは、之を歐米白人種に較べると尙ほ低いのである、亞細亞の衰ねたること蓋し今日より甚だしきは無いであらう。

亞細亞と亞細亞民族の斯く衰ねたる中に在りて、獨り能くその國を保ち、國としての權威を備ね、歐米の白人種と雁行して世界に立つて居るのは、我が日本と日本國民のみである、支那の新人がチャイナレヴュー誌上に掲げた前記『亞細亞主義』の所論中に『亞細亞の荒廢したること恰も沙漠の如し、日本はこの沙漠中の政治的オーシスの樣なものである、スエス以東の天地で、白人に踏み付けられないで、亞細亞のために氣を吐いてゐるのは日本のみである』と言つたが、事實その通りだ。日東に日本といふ帝國がなかつたならば亞細亞と亞細亞民族とはヨリ以上衰ね、白人國と白人のために切りさいなまれ、滿洲は帝政時代已に露國に呑まれてしまひ、支那は白人共同の特別なるコロニーと成つたかも知れない。西藏は依然として英國のもの外蒙古も依然として露國のもの、而して甘肅省と新疆省との回敎族は全く別天地を造つて居るといふ狀態で中華民國の謂ゆる漢、滿、蒙、藏、回を聯ねた五族共和は要するに空名に過ぎないのである。實に日本があればこそ、亞細亞も聊か心強く感ぜられ、ヨリ以上の亞細亞の衰頽を防ぐことも出來、亞細亞民族の刺戟と

もなるのである。亞細亞主義も日本がなければ花も咲かず果も結ばぬだらう。

日本が何うして斯う亞細亞の中で一番頭拔けたかと云ふと、私の觀る所では、それは我が國體の善美なると我が民族性の純眞なるが爲であつて、それに王政維新後の開國進取の國是がピッタリ吻合した故であると思ふ。上古王朝時代の應仁朝十五年に支那の儒敎を入れ、同じく欽明朝十三年に印度の佛敎を入れ、而して之を同化したのは、善美なる我が國體と純眞なる我が民族性の然らしむる所であるが、明治の王政維新以後は、開國進取の國是と相待つて專ら西洋の科學文明を容れ、之を政治、經濟、軍事及び敎育の各方面に適用したので、遂に我國をして東洋唯一の優秀國たらしめたのである。此處が日本の大きい處で、又それが日本を絕わず若返らしめ、建國紀元より云へば、西曆は紀元千九百二十五年、日本は神武天皇紀元二千五百八十五年で、相當に古いにも拘はらず、日新又日新、常に國運民命を新にして前へ〳〵と進み得るのである。停滯せず、膠着せず、些かも頑迷固陋でないのが日本及び日本人の偉なる所以である。

併しながら日本の現在は、餘りに西洋かぶれな所があり、歐米心醉といふやうな所もあつて、悲しいかな模倣文化國たる域より脫出して居ない。歐米の科學文明を卒先取入れたのは、日本の偉なる所であるが、それがまだ十分に消化されて居らず、薰蕕、菽麥、玉石を甄別せずして、味噌も糞も一緒くたにドシ〳〵取入れたので、利と共に弊を生じ、又此の西洋の科學文明にのみ傾倒した結果、東洋固有の精神的文化を閑却し去り、日本の文化と民族性を作つた大要素の國學、漢學、佛敎を一概に時代遲れの骨董物として恰も弊履の

如く棄てゝしまひ、知新の一方に馳せて温故の一面を忘れ、その良い所までも顧みない様になつた。同時に妙な自負心と優越感が我々日本人の心に萠芽し、支那人や朝鮮人を馬鹿扱ひにし、而も歐米人の前には叩頭屈膝するといふ侮小事大思想を生ぜしめた。同じ亞細亞民族の支那人や朝鮮人が日本を成上り國とし日本人を成上り者と稱して心から親しまぬ様になつたのは此故である。如何に日本が東洋の優秀國であつても、如何に日本人が亞細亞の優秀民族であつても、斯んなことでは亞細亞の先覺となり亞細亞民族の指導者となつて亞細亞主義の眞諦を實にすることは出來ない。亞細亞主義の聲が高まつた今日、我が日本と我々日本人とは、東洋に對する我が使命の重大なることを思ふて、此際飜然として迷夢より覺め、眞に亞細亞の羅針盤となり、亞細亞民族の案内役となるやう、深思する所がなくてはならぬ。

それには精神的文化、殊に東洋固有の純眞なる精神的文化に活き、全亞細亞のために先づ自ら大死一番する覺悟を要すると思ふ。之を植物に喩へて云へば、精神的文化は根で、物質的文明は枝葉花の如きものである。ルッソーは元に還れと云つたが、今や歐洲にもカントに還れフイヒテに還れとの聲が起つて居る位だから、東洋では須らく釋迦に還り、孔孟に還り、惟神の道に還るべきであらう。クルッールを棄てゝシビリゼーションに熱中するは大悖戾事である。此の事は前號に掲げた『東洋文化の時代化』の中に述べて置いたから、此上繰返す必要はないが、歐米の機械的物質文明も希臘時代の哲學思想や神秘思想が根元となつて居ることを考ねても、派出な枝葉花にのみに眼を奪はれて地味な根本を忘るゝの非なる は明白である。精神的文

化の根を忘れて物質的文明の枝葉花に無我夢中となれば、人格の低い德性の缺けた策士や、功利の徒や、我利亡者が跋扈して社會を闇黑にしてしまう。日本がさう成つては大變である。

支那や朝鮮の民族が妙な嫉妬心や猜疑心に驅られて日本に當り散らすのも、大きな間違ひで、斯んな事で亞細亞主義が地上に實現される望みはない。朝鮮人はウキルソン氏の民族自決主義を利用して大正八年に滑稽極まる獨立萬歳騷ぎを演出したが、不逞鮮人の一派が今尙ほ日本を敵視し、他の力を藉りて日本を排擊しやうとして居るのは、實に亞細亞主義の反逆と謂はなければならぬ。支那の政治家が支那傳統の以夷制夷策を弄し、又その新人が事每にヒステリックな言動に出でゝ排日熱や排日貨を煽動するのも、全く亞細亞主義を裏切つた妄擧である。亞細亞人同志が互に鷸蚌の爭を事とせば他に漁夫の利を占めらるゝは當然の歸結である。小異を去つて大同に就くの宏量雅懷なくんば、如何ほど亞細亞主義の聲を高めても、そは遂に空念佛たるに過ぎぬ。支那や朝鮮の民族も最ういゝ加減に目を覺まして可い筈である。

何と云つても亞細亞の文化と亞細亞民族の實力は劣つて居る。日本のみがヤキモキしても他の亞細亞民族が覺醒しなければ亞細亞主義は到底實現されぬ。繰返して言ふ、亞細亞主義は『亞細亞人自らの力を以て亞細亞の文化を進め、亞細亞民族の實力を强め、而して亞細亞の自存自彊を圖る』ことである。今のやうな劣勢弱力では、日本だけが氣張つて見ても、亞細亞は白人種の踏臺であり、亞細亞民族はアングロサクソン族の奴隷たるの外ない。亞細亞民族たるもの覺醒せずして可ならんや。

失業者問題の對策と移植民

移植民地から成るべく失業者を出さぬ樣にせよ

失業者問題は實に我國刻下の重大なる社會問題である。何時が時代にも多少の失業者は之あるものだが今日の如く夥だしきは恐らく稀であらう。今日夥だしき失業者を出すに至つたのは、過去の放漫なる財政經濟策の報ひで、官衙でも、會社又は銀行でも、或は商店でも、謂ゆる整理緊縮を餘儀なくされ、其の整理緊縮に人件費の節約が含まれ、而して人件費の節約は人員の淘汰となるので、到る處に失業者が續々出る樣になつたのである。寔に勢の已むを得ない事だが、此の社會上の重大問題を冷かに觀て、十分の對策を講究し實行しないと、種々の問題之より發生し、將來に禍根を遺す事になるだらう。

そこで、政府でも、民間でも、近來漸く失業者問題の對策を考へる樣になり、政府は職業紹介所の法規改正や其の運用の改善に努めてゐるが、申譯的で甚だ不徹底な所が多い。失業者問題の對策なるものは、職業紹介所の機能をヨリ以上働かせると云ふ事のみで足るものではなく、其の積極策としては、新たに事業を起すなり、都市又は農村の公益事業を興すなり、若くは進んで大いに海外への移植民を奬勵する事にせねばならぬ。然るに何も彼も消極的になつた今日、政府も民間も新たに事業を起すといふ念慮なく、そんな事をする時代ではないと云ふ風に、唯一圖に小さくなつて手を引込ませるため、如何に職業紹介所の機能を働かせ

て見せても、求人と求職とのバランスが取れないで、ドシ〳〵失業者が殖ゑて來るのである。此際一番好い對策は移植民の奬勵であるが、移民には有色人種排斥といふ大障害があり、植民は土着民との關係で思ふやうにならぬと云ふことになつて居る。人口は年々增殖する、失業者は益々增加する、而して其の夥だしい失業者の處分が滿足に出來ないとあつては、實に之れほど重大なる社會問題はない。

歐米への移民の障害を排除する事は、今の如き政府外交では到底望まれぬから、此の方は暫く措き、北海道への內國植民を初めとして、朝鮮、臺灣、樺太、南洋及び關東州等への植民、並に土地廣く人口收容の餘地ある滿蒙と極東露領への移民については、何とか其の對策を樹てゝ貰ひたいものだ。今日の滿蒙宣傳なるものは、主として資本家招徠の意味において行はれて居る樣だが、資本家を招徠し、滿蒙に新らしい生產事業が起ることになれば、勞働者は賃銀の安い生活程度の低い支那人を使用するとしても、事務其他の從業員には日本人を要する事であらうから、多少の智識階級者を移住させることが出來、隨つて失業者救濟の一便法ともなり得るだらう。併しそれ許りで可いといふわけには行かない。

即ち此處にどうしても移民と併せて植民の積極的對策を樹てる必要がある。政友會は政務調査のために最近幹部員と顧問との聯合會を開き、その聯合會において、人口問題の對策として支那本部、滿蒙、朝鮮、北海道、臺灣及び南洋等への移植民の具體的方策を立てる事になつたが、之れは人口問題の對策であると同時に失業者問題の對策でもあるのだ。政黨がどんな具體案を作るか、政黨の力ばかりで此の大きな對策が出來

るか、出來ても實行力あるものとなり得るか、それは疑問であるけれども、移植民の具體的方策を樹てることは實に我國刻下の緊急事である。併し此の對策も却々難かしい。滿蒙には支那人といふ勤勉力行の化身とも云ふべき民族がゐて、農に、商に、勞働に、廣くその手を伸ばして居るから、日本の內地から小作農や小商人や普通勞働者を滿蒙に限りなく容れることは出來ない。人口收容の餘地は幾らでもあるが支那民族との關係上如何なる日本人も差障りなくドシ〲容れるといふことが出來なくなつて居るのだ。其處で新領土方面への植民、別して滿蒙方面への特別移民は、智識階級者を以てその中堅とし、その左右翼を自農作と工業人といふ風にせねばなるまい。遣り樣によつては滿蒙だけでも二三十萬人位を移住させることが出來ると思ふ。但し之も無論事業の進捗と相俟たなければ滿足な結果を得る望みはない。

之れと同時に、既に移植民人となつた者は、その地に飽まで永住土着せしめる樣にし、其處に生活の基礎を築かしむべきである。滿洲でも會社、銀行、其他の各方面に整理緊縮が行はれ、その人件費の節約と共に此の二三年來失業者が增加し、その一部は日本の內地に引揚げるといふ狀態になつたが、折角海外へ進出したものを空しく本國に引揚げさせるのは、本人のためにも悲むべき事であり、本國に失業者の續出する今日海外の地からも失業者が飛び込み、一層失業者の數を多くすると云ふことは、非常に面白くない現象で、是れまた社會上の重大問題である。故に今後は成るべく此種の失業者を出さぬ樣にし、滿蒙及び新領土等に移住したものは、何處迄も其の地で働かさせる樣に工風すべしである。

神心獸體

◆『神心獸體』とは四月中來滿した後藤新平子が大連その他各地の少年團に書き與ゐた寸語である◆大連出發の時も埠頭に見送つたカーキー色の團服を着た可愛らしい少年團の一組に『神心獸體』と名刺に書いて與ゐた◆後藤子は我國當代の政治家であると同時に凡ゆる方面に關係し一面政治教育乃至社會教育家として重きをなして居る◆日本少年團聯盟の牛耳を執つて居るのも後藤子で未來の國民たるべき少年の善化良導にも常に心を控いて居る◆此の故に滿洲入りの時も少年團に對する時は少年團の少年と同じカーキー色の服裝をなし總長の資格で親しげにニコ〱して少年と三指擧手の禮を交はし大なるおぢさん振りを示した◆本誌『滿洲之社會』に『少年團の來歷と本質』の一文を寄せて呉れた三島通陽子も後藤子と一緒に滿洲各地を見廻つた◆さて後藤子が少年團員に書き與ゐた『神心獸體』といふ寸語は言ふ迄もなく心は神の如く淸く體は獸の如く强かれと云ふことで『頭腦は文化的に身體は野蠻的に』と云ふのと同じだ◆餘りに文明病に罹ると頭腦が智識的に進む代り身體が虛弱になつて墮落してしまふ◆此の故に各學校でも智育と共に體育に骨を折つて居るのであるが『神の如き心』を持たせるには現在のやうな學校教育では恐らく駄目であらう◆日本少年團の三ツの誓約則ち(一)神明を尊び皇室を敬ひます(二)人の爲め世の爲め國の爲めに盡します(三)少年團の掟を守りますは之を實踐躬行する事によりて神の如き心となり得られる◆山河を跋涉し自然に親むのも少年團の一ツの行動でこの自然に親むと云ふことが又人心を神化する働きを爲すものだ◆少年はまだ朱に染まない布のやうなもので其心自ら神の如き所があるから折角之を敎養して强く正しいものにせねばならぬ◆身體を練ゐて獸の如く强健にし精神を磨いて神の如く高潔にしたならば如何なる誘惑にも打勝つて社會を淸め國家を强める事が出來るだらう◆處が今日の實際社會には『人面獸心』の者やら『獸心獸體』の者やらが我は顏にのさばり廻つて居るので頗る危ッかしい◆獸の如き强健なる身體の持主の多くは其心神を距ること遠く我利我慾を旨とし横暴專恣を事とするので社會を濁らし國家を殆うするのだ◆その反對に神の如き心を持つた者の中には身體虛弱

にして實社會に十分活動し能はぬ者もある◆その孰れも要するに不具者だが肉體ばかり丈夫で靈魂の不健全なものは兎角惡い事をするから心も體も共に健全であるやう爰に謂ふ所の『靈肉一致』なるものも叫ばれるのである◆元來人間の心は『半神半獸』となつて居るので一方の神性を飽くまで强めないと他の一方の獸性に征服されて惡い方面に傾く◆佛敎で『破邪顯正』といふのは邪心を破つて正心を顯はすこと卽ち獸心を征服して神心を發揚する事である◆が此の工風がなか〳〵難ケしい從つて人間の多くは自己の獸心のために神から遠ざかつて行く◆『克己』でなければ神心は顯はれない同時にまた『克已』でなければ獸心を征服されないト云ふことを眞面目に考ねて居る者が何人あるだらう乎◆國家も社會も後藤子の云ふ『神心獸體』でなければ正しく强く且優れる事は出來ない◆文化は卽ち國家及び社會を神の如くせんが爲めのもの軍備は國家及び社會を獸の如く强くせんが爲めのものだ◆文化ありと雖も軍備なき國は滅びる亡びない迄も强く正しくなれない軍備は要するに國家を强く正しくするものである◆公卿が武士に天下を取られたのも羅馬が蠻族ゴールに征服されたのも支那が夷狄に支配されたのも文化ありて軍備武備衰ねたるが爲めに外ならぬ◆毎度申す事だが藤田東湖がその正氣歌のうちに『發しては萬朶の櫻』と云つたのは文化のこと『凝つては百錬の鐵』と云つたのは武備の事で此の二ッが健全でなければ個人も社會も國家も正しく强く且優れることは出來ぬ◆後藤新平子の『神心獸體』といふ少年團に與ねた寸語は以上の眞理を最も簡單に最も解り易く言ひ表はしたものである◆此の寸語は啻に少年のみならず青年も壯年も男も女も老人も一樣に座右の銘として欲しい◆別して『神心』といふ事には居常深甚の注意を拂ひ自ら備はれる所の各自の神心卽ち良心、良智、靈能を毎朝自分の齒を磨くやうに絶ねず磨き清める事にしたい◆如何に身體を獸の如く强健にしても其心に惡魔が巣喰つて神を天の巖戸に閉鎖して了つては眞に强く正しくなれない◆唯强い計りでは可けない强いと共に正しく且清くなければならぬ個人も社會も國家も『神心獸體』でなければならぬ◆日本の國民魂則ち大和魂は本來神心その物であるのだ惟神の道が國民の靈に宿りて大和魂となり又武士道となつたのである。

共同生活觀念の養成（下）

法學博士　穗積重遠

普通選擧の問題と共に研究すべき一大問題は則ち私有財産制度の問題である。之れは非常に重要な問題で今の内に本當に之を研究して置くことは社會、國家の將來の爲めに必要であると思ふ。前陳の如く、今日は大學で民法の講義をするのに、民法が私有權を認めて居ると言ふだけでは、何うしても學生が承知しなくなつた、さうして何故認めるかと必らず質問する。其の質問に解答しなければ敎授たる職務を盡すことが出來ない。何が故に私有財産を認むるかと云ふことは、今日まで何人も可なりに苦しんで居つた問題で、寧ろ其の反對論の方が鋒先が鋭い。全體財産が一方に厚く一方に薄いと云ふのは可けない、何も働かずに財産を得る謂ゆる不勞所得は殊に惡い。また親の財産を子が其のまゝ自己の財産とすることも可けない、との議論があり、その極端な議論になると、財産私有は竊盜なりとまで論ずる。

之に對する私有財産制論者の主張如何と見れば、人間には自利心、利己心があるから、財産を持たせなければ働かない、自身で働いて求めた所得が自己の所有物とならなかつたならば、人間は決して働くものでない、若し私有財産制度がなかつたならば人間の經濟生活は停止して了ふ、と云ふやうな說き方をする。則ち人類には利己心があるから私有財産を認めることも已むを得ないと云ふのである。然しそれだけでは甚だ物

足らぬ說明であり、又非常に危險な說明の仕方であると考へる。今日の私有財産制度を危くする敵は、外部から之を攻擊する共産主義者の如き徒に非ずして、私有財産權を振廻す利己主義者であると思ふ。『己れの物』と云ふ從來の觀念よりして、今日の人々は一旦或物が自分の物となると、之は己の物だから決して他人には使はせない、自分が使はぬ場合でも他人には手を觸れさせない、又己れの物は之を使ふと使ふまいと、壞さうと壞すまいと、それは自分の勝手だと云ふ樣に『己れの物』だといふ觀念が非常に深い。若し各人が之で押して行つたならば結局大騷動になるだらうと思ふ。己れの物と云ふ念慮は軈て『他人の物も自分の物』と云ふ觀念に移り易い。己れの物は己れの物、他の物も己れの物と思つて、互に相爭つて居るのが現社會の情態ではない乎。此の情態は却つて內部から私有財産制度を危くする。斯樣にして進んだならば私有財産制度を中心として將來大騷動を惹き起すことは火を睹るよりも明かである。

それ故に私は之を反對に考へたい。私有財産は勿論之を認めるが、それと同時に、所有者各自が『自分の物は他人の物』と思つて貰ひたいのである。自分が今幸ひに持つて居る此の財物は、自身の腕で働いて得たものと思はれるけれども、能く考へて見ると必ずしも然うでない、無論自分の働きも含んでは居るけれども然しそれは寧ろ社會のお陰である、自分が働きさへすれば此の財物が自分の手に入るやうに社會が仕向けて吳れるのである、故に之を得られるのは社會の恩惠である、又此の財物が祖先から傳はつた物であるならば自分が之を所有するのは祖先の賜である、其の祖先もまた社會共同生活のお陰で此の財物を手に入れたのである、尙ほ此の財物を自己の物として安全に使用し得るのも社會共同生活の賜である、要するに各自が財産を安全に所有することを得るのは國家並びに社會の力である、と斯う考へなければならぬ。詰り財産は自己の所有物であると同時に預り物であると考へて貰ひたいのである。之を宗敎的に考へて、總ての財産は神佛

が人間に預けられた物であると信ずる人があるならば、さう思つても可い。さう云ふ宗教心の起らない人は之は自分が社會並びに國家から預つて居る物である、と考へて貰ひたいのだ。

近頃我國に始めて信託法なるものが制定されて再昨年から行はれて居る。信託と云ふことは我國では新しい考案で從來は斯る考案が無かつたのである。例へば茲に一つの敎化團體が設立されると、其の主旨に贊成して寄附金が處々から集まる、然るに其の寄附金を如何に始末するかと言ふに、日本の今日までの方法では多く財團法人を組織した。然るに之れより尙ほ一層簡單な方法がある。それは百萬圓なり二百萬圓なりの寄附金なり、建物なり、敷地なりを全部其の團長の所有とする事である。さうすると法律上では其の財產は其の團長の私有財產で、團員は團長の人格に信賴して之を全部委託するのであるが、之に對して團長は如何なる方法を採るかと言へば、其の財產は形式上自己の財產にはなつて居るけれども、之は勿論自己の物ではない、團員の醵出金を自分が預つて居るのだ、自己の所有財產にはなつて居るけれども決して自己の所有物ではない、則ち信託財產である、既に信託財產である以上、信託の目的に適ふ樣に使用しなければならぬと云ふので、之れを有效に運用して敎化事業を經營する。之が信託法に謂ふ所の信託財產である。信託財產は斯る特殊の財產に限るのであるが然し私は吾人の總ての財產が結局信託財產であると考へたいのである。吾人の所有する財產は、神からか、佛からか、若くは國家並びに社會からか、兎に角他から預けられて居る信託財產である、と考ふべきであると思ふ。汝は其の財產によつて生活せよ、其の財產を利用して生き甲斐あるやうに働け、そして國家並びに社會の一員たる職分を出來るだけ十分に盡せ、と云ふ意味において、自分の財產が自分の手に預けられてあるのだと、斯う云ふ風に考へたいのである。

又他方に於ては財產の仕組を好くして成るべく十分世人に行渡る樣にすることが必要である。其處には各

人の勤勞の差とか、其他種々の因緣事情があつて、或人は多く得、或人は少ししか得て居らぬかも知れないが、兎に角之を全然自己の物と思へばこそ、多ければ得意になり、少なければ腹が立つ、と云ふことになつて、其處からいろ〳〵な悶着が起るけれども、之を預り物だと思へば、多く受ければそれだけ責任が重くなり、少ないからと云つて不平も起らず、多い少ないと云ふ事が絶對のものでなくなる。斯うして此の財產が何の爲めに自分に與へられて居るかと云ふことを考へるならば、其の目的に適ふやうに十分運用して、自身も之によつて活き、又他人の便益を圖る樣にもしなければならぬと思ふ。

此點に就き特に問題となるのは土地である。土地は有限のものである。地球全體から觀ても三分の二は海面で土地は三分の一に過ぎない。その狹隘な限りある土地の一部を自分が所有して居ると假定せんか、所有者に取つては誠に幸福であるが、然し其の所有地を如何樣に使用するが可いかと云ふことは大いに攻究しなければならぬ問題である。自分が適當な地面を取つて其處に住むのは結構である、又その上に餘つた地面があるならば、之を他人へ貸して地代を取るのも當然である、更に其處へ貸家を建てゝ家賃を取ることも當然である、自己の使用せる殘餘の土地を人に使用せしめ、其の代りに相當の報酬を得ることは正當な事である兎に角土地は自身も使用し、他人も使用し、共同で使用しなければならぬもので、問題は誰が所有して居ると云ふ事ではない。結局は其の土地を誰が持つて居つても、之を能く管理し整理して、世人に具合好く使用せしめることになれば問題は解決されるのである。然るに今日の情態を見るに、往々にして廣大な地面の所有者が强ひて自己一人で之を占有しようとし、そして使用しない部分には草を莽々と生やして置く。今日までの理窟から言へば其の土地の使用法の如何は其の所有者の勝手だと云ふ論で通るであらう。然し私はそれを所有者の勝手ではないと言ふのである。從來の法律の解說によると、所有權者は所有物を使はない權利を

有することになつて居るが、此の理論は感服し難い。所有權者は所有物を使はなければならない義務がある所有權は所有者に對し非常に利益のある權利である代りに、之を適當に使用して自身をも又他人をも益する樣にしなければ、所有者たる責任を十分に盡し得たものとは言へないと思ふ。

此等の事は今日まで法律問題ではなく道德問題であると言ひ來つたのであるが道德問題としてゞも解決が出來ればそれで可い。私も所有權には法律的性質よりも斯る道德的性質が含まれて居ると思つて居る。然るに最近に之が法律化されたのは獨逸の新憲法である。獨逸の新憲法は種々な意味に於て非常に興味を感ずる在來の憲法なるものは、何れの國を問はず、國體の事とか、政體の事とか、總て國家の組織を規定せるものである。處が一九一八年に制定された獨逸の新憲法を見るに、勿論此等の事柄も規定されてあるが、其外に國民の日常生活の根本原則とも稱すべきものを規定して居る。例へば婚姻の事や勞働問題の事なども其の根本原則となつて居る。其中に共同生活と題する一章があり、爰に共同生活の原則を記し、そして其の經濟生活と云ふ一節に餘程面白い規定がある。それは僅か Eigentum Verpflichtet の二字で『所有權は義務付けられたり』とでも譯すべきものであるが、其の意味を言ふと、所有權は認めるが、所有者はそれだけ義務を負はなければ成らぬと云ふのである。己れの物は己れの好きな樣に勝手に處分して構はない、使用したくなければ使用せずに置いても可い、と云ふ觀念は不可である、斯う云ふ意味の根本原則を掲げてある。更に土地に就いては上述の私の論旨の如く『土地の所有者は其の土地を自己及び他人の利益の爲めに利用するを要す』と云ふやうな規定がある。それ故に所有地を徒らに放棄して置いたり、自己の利益のために轉賣したり、土地投機を煽つたり、若くは他人の損害となることに使用してはならぬ義務がある譯である。斯くて始めて所有權—私有財產制度—は結構なものであると言ひ得るのである。則ち或人が土地を持つて居つても持つて居

るが爲めに我も人も卽ち社會全體が利益を享けることになるからである。

私は郊外散步の愛好者である。歐洲留學中は、倫敦にせよ、伯林にせよ、巴里にせよ、郊外が非常に美しいので、殊に始終郊外散策を試みた。從つて都會の中よりも郊外の地理を能く知つて居る位であるが、先づ倫敦へ到着すると、早速書舗へ行つて郊外散步案內と云ふ本を一冊購ふた。それを讀んで見ると、劈頭に郊外遠足の秘訣と云ふ樣なことを五六箇條書いてあるが、其中に『通り拔けがあつたら曲り込め』と云ふ一箇條がある。何の事やら解らない。然し其後郊外へ出て見ると其事が直ぐ解つた。少し行くと『通り拔け』と記いた處がある—日本なら通り拔け無用と書く處だが—これだなと思つて入つて行くと人の庭園である。倫敦の郊外には英國の貴族富豪の邸宅が澤山あつて、皆廣い庭園を有つて居るが、其の庭園である。入つて見ると、非常に氣持の好い散步道があつて、行くに從つて森あり、池あり、其間を縫つて行くと、向ふ側の通路へ好い具合に出られる。又少し行くと通り拔けの標札が出て居る。其處へ曲り込むと美しい花園の間を通つて又通路へ出る。普通の道路を通つて自働車の塵埃を浴びるよりは、通り拔けを拔けて通つて行けば、非常に愉快な散步が出來る。そこで、成程郊外散策の秘訣は通り拔けがあつたら曲り込めだと感じたのであるが其の庭園を通り拔けながら、不圖思ひ出したのは『文王の囿は方七十里、芻蕘の者も往き、雉兎の者も往く民と之を同じうす、民以て小なりと爲す、亦宜ならずや』と云ふ孟子の一節である。文王は方七十里の庭園を有つて居たが、之を人民に開放して、其中で草を刈つたり、薪を採つたり、雉や兎を捕つても構はず、自由に其處を利用せしめたから、人民は非常に悅んで、文王が斯の如き大庭園を有することに不滿を抱かざるのみならず、却つて方七十里の庭園をも小なりとし、尙ほ一層廣いのをお持ちになつても可いと言つたのだ倫敦郊外の通り拔けを通つて之が成程文王の囿だなと痛感せざるを得なかつた。

或る物品を或人が所有して居ると、之が爲め其の物品を他人が使へないと云ふ觀念を起すのが普通であるが、それと反對に此の物品を彼人に預けて置けば、大層大事にして何時も清潔にして呉れる、彼れ自身が不用な時には我等にも使はして貰へる、此の物品は彼れに預けて置く方が一番良策である、と云ふことになる之が私有財產權維持の唯一の道ではなからうかと考へる。勿論その一方に於て相互に他人の所有權は大いに尊重しなければならぬ。此の物品は彼の物だが、唯預けてあるだけの事だから、何時でも行つて引たくつて使ふと云ふのでは可けない。斯る場合には所有者に斷つて使はして貰ふと云ふ程度の遠慮乃至禮儀が必要である。此の遠慮と禮儀がなければ、庭園を開放する人があつたとしても、果して好結果を收め得るか否かは問題である。入園者が皆素直に通り拔ければ可いが、通り拔けがあつたら曲り込め所ではなく、通り拔けでない處までも行き、草花でもあつたら折つて行けと云ふことになつては、勢ひ通り拔け無用の標札を掲げざるを得なくなつて來る。故を以て先づ一般世人が共同生活の必要を十分に理解することが急務である。換言すれば私有財產制度も共同生活の根本の上に立たなければならぬ。此の制度は人間の利己心といふ樣なもので決して解說の出來るものではない。共同生活觀念の上に立つて始めて私有財產は是認せらるべきものである。共同生活の爲には適當な財產を各自に持たしめて置く方が可いと云ふ事にならなければ本當に私有財產制度を維持することが出來ない。此の制度は今日まで吾人が各自に所有して來た歷史があるから、何を好んで之を破壞して可からうぞ、破壞するどころか、寧ろ益々之を發達せしめて、其の制度の下に愉快に安心して生活を樂み、人間を完成することの出來る樣にしなければならぬ。之が爲めには所有者自身が從來の利己的觀念を棄てゝ眞正なる共同生活觀念の上に立たなければならぬと思ふ。

私は高等文官試驗委員を勤めて居るが曾て他の試驗委員の口述試問を傍で聽いて居て面白く感じた事があ

る。試驗官の曰ふ所は『之から此方が僕の地面で、之から其方が君の地面で隣り合つて居る、君の方の物干に乾してあつた浴衣が風の爲めに飛んで僕の地面へ落ちた、君は何うして其の浴衣を取るか』と云ふのであるさうすると受驗者は『先生の許へ行つて貴下のお庭に私の浴衣が落ちましたから何卒取らして下さい』と言つて賴みますと答へる。試驗官は首を振つて『幾ら賴んでも僕は承知しない、此處は僕の地面であるから一步も踏込んではならぬ』と斷つたら何うするかと更に試問すると、さうしたら私は『それなら貴下が取つて下さい』と言つて賴みますと答へる。『それも可かん、僕が持込んだのなら僕が取つて返して上げねばならないが、風が飛ばしたんだから僕は知らん』と言つたら何うすると詰め寄せると、受驗者は解答に窮して『それでは物干竿に引掛けて取りませうか』と言つたので大笑ひをした。然し試驗官は中々容赦しない。『物干竿一本たりとも人の地面へ突き出すのは所有權の侵害だからそれもならぬ』と言ふ。『それでは仕方がないから浴衣一枚捨てませう』。『浴衣一枚たりとも無益に捨てることは社會經濟上許すべからざる事である』と言ふ。そこで受驗者は愈々窮して到頭兜を脫いで了つたのであつた。此の問題は抑もの初めに錯誤がある。此處は僕の地面だから君は一步も踏込むことが出來ないと斷つたと言ふ所に錯誤がある。所有權は元來斯くの如き絕對的なものではない。勿論他人の地面へ入らうとするには相當な禮を盡すのが當然である。相當な禮を盡して浴衣を取らして呉れと賴んだ所でそれは土地の所有者に對して何等の損害をも與へるものでない。然るに此處は自分の所有權內だからと云ふ一點張りで他人を拒絕した其の根本の出發點が誤つて居る。此の根本觀念を誤まり而して土地問題を議するのは畢竟するに徒爾である。然も現今の所有者は其の誤つた觀念を基本として居る。己れの物は己れの物だと無暗に抱へ込んで居る。此の誤つた觀念を除いて所有權に就いても共同生活觀念を確立せしめることが私有財產權を安全にする根本であらうと信ずる。

尙ほ以上の論旨に關聯して爰に一言せざるを得ないのは米國の排日問題である。丁度今より二百年前に生まれた獨逸の大哲學者カントは其の七十歳の時に『永久平和論』を著した。之はカントの大著作の僅か一小部分に過ぎないのであるが其中に非常に興味ある說が書いてある。カント曰く『地球の表面は世界の人類が皆仲好く一緒に使用すべきものである、之が永久平和の根本である、勿論各國の領土は重んずべきものであるが、然し甲國の人が乙國へ行くことは當然可能でなければならぬ、之は單に國際的儀禮の問題ではなく、國際上の權利義務の問題である、賓客權があると共に、好遇義務があるのだ、但しそれは賓客であつて侵略者であつてはならない、賓客の顏をして侵略せんとする者は無論可けない』と。そして其の時代には我國は德川氏の鎖國時代であつたから、カントは『今の西洋人が東洋に行くのは、賓客ではなく侵略者である、それ故に日本は賢明にも鎖國して居る』と言つて居る。則ち平和の客換言すれば共同生活をしやうと云ふ客であれば對手國は其の入國を拒む權利が無いのである。勿論其處には相互の都合上種々なる約束が成立つであらうが、兎に角根本原則から言へば、一國に外國人を一步も入れぬと拒むことは誤つて居る。然るに今日では外國人の入國禁止は領土主權の結果當然言ひ得ることゝなり、之を論據として、對手國に對して義理が惡からうが惡くなからうが、國際禮儀に反しやうが反しまいが、入國を拒絕する權利は國家として當然持つて居るのだ、と主張する米國の態度は根本的に誤つて居ると思ふ。米國大統領は遂に彼の法律を批准して施行して居るが之を批准する時は言譯らしい覺書を發表した。其中に米國政府の誤れる國家主權論、領土主權論卽ち穿き違へた國家主義が露骨に現はれて居る。米國の此の態度はあらゆる方面から觀て反省を促すべきものと思ふが世間には特に此點に付いて論難を加へて居る人が無いやうに思ふ。

大統領は其の聲明中に『新移民法案は議會が移民の通則を國際間の協定に委せずして立法によつて之を定

むる權能を保持するものである』と說いて居る。其の意味に、移民を入れるか入れぬかは國内の問題であるから、他國に協議して決すべき性質のものではない、それを議會が國家の大權として決定しやうと云ふのであつて見れば仕方がないと云ふ辯解である。則ち米國では日本の抗議は米國の内政に干渉するものだと逆襲するのである。**然し此の見方は誤つた見方**であると思ふ。**右は決して國内の問題ではなく、國際的共同生活**の問題で、決して**一國の主權だけを以て左右し得る**問題ではない。**抑も國際間の協定に俟たずに外國人入國**問題を決定するが如きは根本的謬見である。之に對し日本の外務省から抗議書を送つたけれども、此の抗議書も其の點に付いては甚だ物足りない所が多く、要するに甚だ不徹底である。外務省としては私の論するやうなことが言へるか何うかは知らないが詰り『根本論としては各國の範圍内に於ける移民入國の制限及び取締が國家固有の立權内に屬することに之れを否定せむとするものに非ず』と言つて御尤もだと是認して居る則ち御說はさうだけれども然し餘り酷ではないかと言ふのである。それでは誠に論據が弱い。そこで、此の問題は一國家限りの問題ではなく國際間の協定に俟つべきものである、日本を差別待遇するだけが惡いのではない、總ての外國人を平等に排斥するのであつても不當である、國際共同生活の根本原則に反する、單に國内法及び條約云々の問題ではないと、斯う突込んで見たかつたのである。

米國人が米國は我等の領土なれば外國人を一歩も入ることならぬと拒むのは、前陳の浴衣を取るに入つてはならぬと言ふのと同一謬想であつて、米國の政治家諸君が此の人類共同生活の根本義を誤つて居ることは寧ろ米國の爲めに惜むべく、延いては世界全體の爲めに悲むべく憂ふべき事であると考へる。埴原大使が『重大なる結果』と言つたのは決して戰爭を意味したのではない、折角此處まで進んだ人類の共同生活を百三十年前カントが既に道破した其の以前の程度に引下げる、則ち人類の進歩を少くとも百三十年以上退歩せしめ

る重大なる結果を生ずることを指したものと解すべきである。右は單に日本一國としての事ではなく世界人類の爲め米國に反省を促さなければならぬ問題である。國家ならば何事をしても可いと云ふ道理はない。『國家は最高の道德なり』と云ふ語があるけれどもそれは國家のする事は何でも最高の道德だと云ふ意味ではない。之は『國家が最高道德とならなければならぬ』と云ふ意味であると思ふ。國家の道德と個人の道德と違ふと說く者もあるが個人としては惡いが國家なら許しても可いと云ふ道德があり得べき筈がないと私は思ふ個人間にせよ、國家間にせよ、將た社會間にせよ、道德に少しも差異はない。國家ならば尙さら道德を重んじなければならぬ。則ち國家は最高の道德の實現者でなくてはならぬと信ずる。

社會敎化とは何かと言へば、可なり難かしい問題の樣であるが、私は結局之れは總ての方面に共同生活觀念を確立して之を運用することであると考へる。古來兒童を敎育するのに、汝は豪い人物にならなければならぬとか、日本は豪い國にならなければならぬとか言つて訓戒するが、然し其の意味を誤つてはならぬ。豪い人物になれとは總ての人々に大臣大將になれよと言ふ譯ではない。豪い人物と言ふのは、其人が加はつて居る爲めに、少くとも其の社會の共同生活が何等かの價値を增して行くもので、それが眞に豪い人物である又豪い國と言ふのは天下を併呑する意味ではない、其の國がある爲めに世界全體の共同生活が美しくなると云ふ意味であつて、それが眞に豪い國である。日本あるが爲め世界全體の共同生活が美しくなると云ふならば日本は偉大なる國である。米國あるが爲め世界全體の共同生活が破壞されると云ふことであるならば如何に富强であつても米國は豪い國とは言ひ得ないのである。故に是非とも日本人を總て眞正の意味の豪い人となし日本國を眞正の意味の豪い國としなければならぬと思ふ。支那の秦の始皇帝は豪い帝王であつたと云ふ又秦の國も豪い國であつたと云ふ。始皇帝の人物論は種々あるけれども通俗な意味において豪傑であつたに

相違ない。然し一方から考へると若し始皇帝が無かつたならば或は支那が平和に治つたかも知れない。又秦の國が無かつたならば其後の戰亂が起らなかつたかも知れない。若し支那の共同生活の爲めに秦の始皇帝が無い方が可かつたとするならば、始皇帝は決して豪い人物ではない、秦の國も豪い國ではない、と云ふ結論に達するであらう。希くば日本人及び日本國は其の存在が人類の共同生活の爲めに價値あるものであつて欲しい。我等個人〳〵は微々たる者であるにせよ、我等の存在によつて共同生活を美化せしめ、日本の存立が世界全體の共同生活をして價値あらしめることが則ち社會敎化の目的である。要するに敎化の目的は共同生活觀念の養成とその確立並びに運用に在ることゝ信ずる。（完結）

歐米の社會事業を視て（三）

關東廳事務官　藤田偵治郎

第七、少年審判所傍聽記（妻へ通信の一節）

大正十一年（一九二二）十一月十日、今日はシカゴの少年審判所に行つて終日傍聽して來た。實に面白かつた。少年審判所と云ふことは、豫てからよく聞いて居たものだから、一體如何な所だらうか、どんな事をする所だらうか、と非常な好奇心に驅られて出かけた。………Officer（法廷）といふから日本の刑事裁判所の法廷のやうなものだらうと想像して居たら全く裏切られた。まるで判事の私室で相談して居るやうだ。看守のやうな男が這入つても可いと云ふから入つて傍聽席に一人で着席した。

正面にアーノルド判事が控ゐて居る。年の頃五十前後と見らるゝ瘠形の紳士で年の割に頭が老けて見ゐる誰かのお頭より餘程發展して居るね。更にその周圍に働いて居る役人連を見ると大抵頭が光つて居る。成程米國へ來ると僕も大部肩巾が廣いなどと一人で思つた。判事は五六寸高のプラットフォームの上に在る安樂椅子に倚つて、悠然として靜かに眼を光らして居る……お頭と共に……。その前面には、腰まで位の高い板の袖垣のやうなものがあるばかりで、外には何にもなく、頭の光る判事は頭の光らない子供と親しげに相對して居る。傍に CourtProbation（保護司）が立つて事件の成行を報告する。

午前中は學校の子供の事件ばかりであつた。十歳から十四、五歳位までのものが母とか姉とかに連れられて入つて來る。多くの事件は『子供が宅から出たきりで歸つて來ないで學校に行かないことが度々である』と云ふ樣なものであつた。親は純粹の米人は少なく伊利人がポーランド人だ。一見米人のやうに見ゐる母親で英語が話せないため通譯に譯して貰ふのもあつた。或る母は六人の良人を迎へてその良人はこの子供の爲めに六人目の繼父だと云つて居た。子供が外出して宅に歸りませぬとも訴へて居た。

判事は靜かに事件を聽いて居らるゝが直ぐにテキハキと裁いて行く。話に聞いて居つた通り鮮かな腕前だ一の事件が十分か十五分で濟む。僕の聞いた中で最も簡單だつたのは、學校に行かないで困るといふ少年がゐて、その事件を一應聽取つた判事は、件の少年の顏を看守りながら『お前は學校に行くと私に約束が出來るか』と云ふと、子供は涙ぐみながら『ハイ出來ます』と答へた、すると判事は『宜しい。次！』でお仕舞そしてサッサと進んで行く。これでも可いのかと思はるゝやうで、呆氣なくも感ぜられたが、之れでなかなか利目があるのだと云ふ。此處に來た子供は十中の八九までシクシクと泣き出す。傍目から見れば何でもないやうだが當の子供には何となく恐ろしい感じもするのであらう。

大正十一年（一九二二）十一月二十八日、今日も午前中少年審判所に行つて見た。判事はシーラースといふ婦人てあつた。この判廷はシカゴのそれよりは一層簡單だ。先づ判事の書齋と見れば可い。判事は普通服の上に黑の法服を一枚着けて居る。四十五、六歳と見ゆる婦人で、兩の眉はキリッと八字を作り、見るから威嚴を備へた堂々たる態度である。しかし能くこそ入らッしやいましたと云つて出された右手は柔かであつた。保護司長はサンフォルドといふ親切な良い人だつた。僕を判事の左手に控へさせ書類など時々出して見せて呉れた。子供が役人に呼ばれて一人々々入つて來る。此處でシカゴのと違ふのは最初に子供とその關係者と判事と保護司とが一様に右手を上げて何か誓ふのである。これは判事の指圖によつてなされるもので先づ一様に手を上げると、判事は早口に何か誓言を唱へる。言葉はハッキリ判らなかつたが、相共に正道に誠心を以て……國家の名に於てと云ふやうなことを云ふのであらう。

こゝに來る子供は、九日間も宅に歸らなかつたとか、親の命令に少しも從はないで困るとか、種々様々だ。今日のは多く黑人だつた。此處ではあまり泣くのはなかつたが一人だけ白人の少年が涙を出して判事の質問に明瞭に答へ得なかつた。次に一人の黑少女が來た。小さいのにチャンと一婦人の服装をして居る、と思つたら、十五歳だがもう結婚して居るのだといふ。その良人だといふ黑青年も來た。十八歳だといふ。少女の母は死んでその叔母なる人が保護して居る。判事が何故にこんな小さいものに結婚させましたかと尋ねるとその叔母さんが『ハイそれはかう云ふ譯なんです』と前置きして語り出す所を聞いて居ると、『この青年に下宿をさせて置きました、或日のこと夜の十一時頃歸宅しましてお風呂に入りました』と云ひかけると、判事の顏は遽かに緊張した、そして『皆さん出て下さい』と宣言した。サンフォルド保護司が僕の耳に口を寄せて『失禮ですが一寸だけ彼方へ』と云つた。宜しいとばかり私は出て行つた。暫くしてその事件の濟んだ頃

再び入廷して見た。午前十時半から十二時半頃までぶつ通しで此日の事件は終つた。

第八、我國の少年審判所

我國でも少年審判所は長い間研究されて居たが、いよ〳〵大正十二年一月一日から少年法の實施に依り之を實施せられる事になり、先づ東京と大阪とに少年審判所が設けられた。その成績の如何に依つて漸次他の大都市にも設けられることであらう。余は昨年の春大阪の少年審判所を見て、米國で視察したものと比較して見たが、彼れ此れ餘程よく似て居る。歐米のそれを學んだものであらうから似てゐるのは當然の話ではあるが……。今その概略を述べて見ればザッと左の通りである。

一、判事としては古谷審判官外三人の專任審判官がある。
二、本審判所の管轄區域は大阪、京都、兵庫の二府一縣。
三、所屬の保護司は專任が八人、囑託が四十三人、婦人保護司が二人である。保護司は毎月受持兒女の成績を審判官に報告しなければならぬ。
四、取扱ふ少年は十四歲以上十六歲までゞあつて總べて檢事の手を經て本所に來る。大正十三年の一月から三月までに取扱つた少年が三百人あつた。

古谷審判官の語るところに依れば、兒女感化の成績は一に保護司の如何に依るとのことで、而かも適當なる保護司を得るのは非常に困難であるとの事であつた。

第九、子供保護協會

米國ボストン滯在中に子供保護協會といふのを視た。

一、これはボストン少女保護會として百年の歴史を有つて居るのが今回（一九二二）始めて他の類似の團體と統一せられ其の名も改められて子供保護協會となつたもので勿論私設である。

二、職員としては主任の外に子供受持が四人、里家調査員が數人ある。

三、主として健康な貧女兒を世話するのであつて一人受持が三十人乃至四十人である。子供を家庭にそのまま置くのを不適當と認めたら豫め調査して置いた里家にその子供を委託するのである。現に本協會の保護下に在る子供が二百人あるとのことであつた。

主任のミス、ブラオンは中年の愛嬌よい婦人であつたが、余の質問に對して心地よく話して呉れ、終には『そんなお上手な英語を一體何處でお學びになつたの？』とか、『米國に今度が始めてですつて？』とか、如何にも親しさうに語られ、余が妻のことなど話したら『ではミセス、フヂタの學友に御紹介しませう』と云つて直ぐ隣室で働いて居た同僚のミス、リッチフイールドに紹介された。余が辭去しやうとしたらミス、ブラオンは更に『若し此の上私共の事業についてお調べになりたいことがお有りでしたら屹度私にお手紙を下さいよ』と云はれ『屹度お忘れになりますな』と堅い握手をせられた。最後の一言は今もなほ余の耳底にありありと殘つてその厚意を感謝せずには居られぬ。余は斯樣な言葉や態度を一片のお世辭として受けたくない、その人の心からの親切としてしみじみと享受したい感がする。

第十、ボストンの子供の使命會

子供保護協會の主任ミス、ブラオンの紹介で同じくボストン市内の子供の使命會といふのを視た。子供保

護協會の姉妹會とも云ふべきものである。彼は主として健康貧兒の保護に當り此は主として病弱貧兒の世話をして居るのである。主任フィールド氏の説明に依れば

一、本會の職員はすべて十五人ある。内五名は子供訪問係りで一人は里家調査を專門にして居る。前にも記したやうに豫め適當な里家を捜し出して置くのである。里家の調査は希望者に就いて嚴密な調査をするのである。希望者は相當に出て來る。一定の調査用紙があつて之に記入して申出る。すると專任の係員がその家庭に就いて主人夫妻の人と爲り、健康狀態、家屋の構造、生活ぶりなど詳細に調べるのである。子供を託するに足る家庭と認定して始めて合格の里家とするのである。

二、この頃本會の保護の下に在る子供が百五十人乃至二百人ある。

三、本會も以前は子供に關する總べての世話をして居つた。所がボストンのみでも子供保護に關し同樣の目的を有する團體が五、六もあつて、互に重複の仕事もしまた互に責任を避ける風もあつたので、此頃この類似の團體を統一し、同じく子供に關しても重複しないやうに分擔することにした。例へば本會は病弱貧女兒を取扱ひ子供保護協會は健康貧女兒を取扱ふやうなものである。

余は事務室の壁間に八、九歳と見ゆる少女の大きい寫眞が掲げてあるのを見て、これは何人ですかと聞いたら、フィールド君はさも得意げに微笑を呼べてかう語つた。

これはミス、ファニース、メリルといふ九歳の少女です。この少女の發意が本會を產み出したのです。彼女が熱心に主張した『私は子供ですから力も弱いです、しかし子供として相應に何かお友達の爲めになることは出來ないでせうか』といふ言葉に刺激せられて、時の有志が相謀つて本會を創立したものである。故に彼女は本會の創立者です。

になることは出來ないでせうか」と云ふ言葉に刺戟されて、

何といふ美しい話だらう。メリル孃も賢いが一少女の言葉を容れて之を實現したこの地の有志も偉い。こんな話を聞いて余は何となく伸んびりした蟠りのない晴々しい氣分になつた。眞のデモクラシー、眞の平等と云ふやうな氣分はこんな所にあるのではなからうか。

少年團を始めた私の經驗

大阪御津ボーイスカウト團長
少年團日本聯盟研究會委員
奥村幸二郎

英米兩國は勿論、歐洲各國、加奈陀、濠洲等に於ても少年團事業が非常に隆盛であり、又その效果の偉大なることは私も夙に之れを聞き、多少の研究もして居つた。私は其後業務の關係などから英、米、佛、蘭領東印度、南阿、暹羅、支那等を數回往復したが、到る處少年團が組織され、而も其の盛大なるを見て驚いた不案内の土地で少年團員から懇切なる取扱ひを受けて感動した事もある。

我國にも近來少年團が各地に設けられ、大連にも設けられたと云ふことだが、私が外國から歸つて來て初めて知つたのは大阪市南區南炭屋町の地島勘治郎君がやつて居た仕事で、これは子供を集めて童話や繪畫をやらして居つた言はゞ少年團の卵のやうなものである。同君は水彩畫の天才で、素人として帝展にも出品した人だが、日曜日には子供を伴れて郊外へ寫生に出掛け、之れに梅本伊三郎と云ふ人が加はつて、此の少年團の卵は段々と育つて行つた。池島君は遂に自分の借家を提供して青年團員や男女學生やに日を分ちて自習復習、繪畫、柔道などをやらす樣になつた。私の四人の子供も常に厄介になつて居つた。一昨年十月、少年團日本聯盟の三島子爵一行の少年團宣傳會で其の映畫講演を觀聽した私共は、從來寄り集りの少年の父兄に

少年團の目的やその精神訓練法を話し、其の了解を得、更に部內の小學校長にも諮つて、池島君の事業を基礎として少年團を組織した。今日の御津ボーイ●スカウトがそれである。

大阪のやうな人家稠密で空地の僅少な處は兒童に取つて甚だ氣の毒な場所である。都市計畫委員會の調査に據れば、大阪某小學校生徒の半數は街路に遊び、殘りの半分は屋內で只遊んで居るのである。私も大阪生れだが、私の幼少の折には凧も揚げれば輪も廻し、蜻蛉釣りもすれば小鳥捕りにも出掛け、一歩郊外に踏み出せば菜の花も見られ蝗捕りも出來ると云ふ有樣で、心行くばかり自然に親むことが出來た。然るに今の都會の子供は何うです、空は煤煙のために黑煙濛々として漂ひ、電線は蜘蛛の巣の如く張られ、道路には電車自動車、自轉車、荷車が引切りなしに通つて居り、馬糞混りの砂塵が渦を卷くと云ふ間に在つて、四方に氣を配りながら右往左往と駈け廻り、少しも落付いた心になれず、偶々街路で球投げをしたり鬼事をすると交通巡査に大きな聲で叱られると云ふ始末だから、私たちの子供時代と違つて、今の子供は神經を絕ねずイライラさして居る。實に今日の都會の子供ほど氣の毒なものはない。

千九百十年、米國下院敎育調査委員は既に此のことを說破して『現代の家庭、『學校は少年を屋外から屋內に引込ます、我等の祖先は田園村落に成育して、遊戲もすれば冒險もし、自然に親しみ、隨つて開拓的勇猛力を有つて居たが、物質文明の進歩と都市生活者の增加とは、全然之を破壞し、殊に交通機關の激增は兒童の遊び場所を危くし、運動競技の如きも全般に涉らず、單に一部の優秀者のみが之を專有し、他の者は唯それを觀て樂しむに過ぎぬ』と言つた。斯くして兒童保護の社會事業が起り、兒童遊戲場など設けられ、又今日の少年團が出來る樣になつたのである。都市の物質的發達は此種の事業を生んだのである。米國は物質文明の最も發達した國であるが、それ丈け、此種の社會施設にも非常に注意し、ボーイ●スカウトの如きは英國

組の少年團が出來る樣になりつゝある。都市の物質的發達は兒童の薄弱を生ぜしめつゝある
めそれを手本として津々浦々の末にまでも設けらるゝと云ふ狀態である。

少年團の起つた事由は概要右の通りであるが、さて私共の作つた少年團は之を如何にすべき乎、と考れた末、薩摩の『健兒の社』の掟に則り、之に英米少年團の綱領を參酌して左の如く定めた。

一、皇室を尊崇すること

二、世の爲め人の爲め國の爲め盡すこと

三、守則に從ひ己が仕事を勵むこと

守則としては忠孝、信義、博愛（動植物愛護、自然物節約を含む）、從順、快活、猶勵、公德、質素、淸潔公明、純潔等凡そ數箇條で、稚ない兒に對しては單純な行ひ易い善事を爲さしめ、且必ず自分の仕事を勵むやうにさせて居る。殊に『備へよ、常に！』の格言は十分に守らしめて居る。

現在の御津ボーイ●スカウトは尋常五六年生より中學二三年生までが約三十五名、靑年が十七名、それに指導者たる吾等三名と外に醫師と工科出の篤志家とが居り、小學校長も何かと相談に與つて居る。少年の素質能力を考察し、六名乃至八名を以て一班（パトロール）となし、長幼相扶け、各班相待つて學業に善行に切磋琢磨せしめ合つて居る。指導者は少年の個性を尊重し、其の天分の伸張促成に注意せねばならぬが、二百三百といふ大集團では手が廻らぬから、勢ひ其の數を增加する事になる。併し私は量よりも質が肝要だと思つて居る。團員たる少年は總べて學校生徒としての本業を持つて居るので、每週二晩と定めて、その一夜は學業の自習又は復習、他の一夜は少年團の學術科に充て、綱領や守則の訓話、綱の結び方、手旗や信號等を敎へ、月二回の休日には野外へ出掛け、斥候事や、植物採集や、飯盒自炊や、史蹟山陵巡拜など遣らして居る。追つては遠方に出掛け、天幕野營や山林生活をして、原始的簡易素朴の生活をも體驗さして見る積りで

ある。之を實行すると少年團の效果が一層目立つて來ると思ふ。

創立日尚ほ淺きを以て、充分なことは出來ないが、常に學業を勵め、家業を手傳へ、善事を行へ、と言つて、之を實賤躬行させて居る。さうすると子供は確かに變つて來る。中學二年の酒屋の息子が酒の配達をしたり荷造りを手傳ふとか、小學生が水撒きしたり家事を手傳ふとか、斯うしたことが著しく目立つて來るとは父兄の話である。又尋常生の內には道で硝子破片を拾つたとか、隣町で泣いてゐた幼兒を送つてやつたとか、玄關先の下駄の亂雜なのを揃へたとか、些細な事ではあるが、それを善行として私共に話すことがある恥かしさうにそれを告白する純眞な兒童の言葉は恰も天籟の如く私共の耳朶に響く。人命救助や交通整理や火事場の手傳ひのみが社會奉仕でない、可憐な兒童の心理に蒔いた此の種子、この善行は彼等の能力及び體力の增進と共に、將來立派に發達して社會奉仕の觀念ともなり、其の實行ともなることゝ信ずる。出來もせぬのに體力弱き子供を交通整理に引張り出すなどは害こそあれ益はない。

昨年春、愛媛縣温泉郡において市郡管區の大人間の爭ひで打捨て置かれた石橋を修覆した六人の小學生の美しい行爲や、姬路附近の鐵橋の燒け落つるのを消し止めた數名の小學生の行動や、之れこそ自發的の實に立派な少年團パトロールの精神から現はれた汚れなき純眞そのまゝの行動である。

前述せる少年團の一班中の優秀なもの一名をその班長(パトロール・リーダー)となし、適宜の小旗を持たし、敎練は小學程度の小隊敎練位まで敎へる。尤もこれは少年が學校で習つてゐることだ。此の外に團杖の操法があり、敬禮法として三指の敬禮、執杖、擧手の禮、捧杖、杖尖に帽を附し頭上高く振り廻す歡呼の禮又は二列相對向して杖を高く交叉せしめ其の杖門の下を受禮者の通過する杖門の禮等あり、これは何れも日本聯盟で一定の型を制定される筈である。團杖を持ち隊伍を組みて行進するため、此の少年團の行動を軍國

主義だの少年軍隊だのといふ誤解もあるやうだが、子供を連れて街路や野外を行進するには節制が必要であり、之なければ危害も起れば不都合も起り易い。東京見物や御上りさんの樣なガヤ〱した無秩序なのが文化的か知らぬが、此の論法からいへば、禪僧の一隊が默々として京洛を托鉢して居るのは軍國主義だとも牽強し得られる。**體軀姿勢を端正ならしめ、擧止動作を敏捷ならしめ、秩序整然として協同一致の動作をせしむる團體訓練には、兵式訓練は尤も進歩した方法である。形體が軍隊式だから氣に喰はぬといふ學究の說は**机上の考へだと思ふ。子供に親しみ、子供の心理に這入れば、隊伍を組み、足並揃へて歩くのも一の方法であることが分る、軍隊は戰鬪必勝、敵軍擊滅を目的として鍛練するが、少年團は集合、儀式、旅行等のとき亂雜無秩序に陷らしめず、また端嚴肅の觀念を起さしめ、事に當り迅速機敏に協同一致の行動をなさしむるのが主眼だから、軍隊とは全然その目的精神が違ふ。團杖と綱だけは少年團に是非必要なもので、服裝は何うでも可い、必らず英米式の服裝に模せねばならぬと云ふことはない。

機會ある每に、自然に親しむため野外に出で、昆虫、魚類、植物を採集し、山陵又は史蹟を巡拜し、救急法を講じ、山河を跋渉するのは少年團の要務である。其他方位の觀察、氣象、星座運行の大要、地質、地方潮汐、海岬等について實地研究をなし、又はテント野營、飯盒自炊を營み、朝日に浴し、落日を浴び、星辰を仰ぎ、火を圍んで團欒談笑し、以て原始的簡易素朴の生活を經驗する等も、決して不必要のことではない遊戯をして杖を振ひ、投索をなし、各競技をなさしめ、釣魚、奏樂、伐木等をなさしむるのも必要だ。それから個性を鑑みて繪畫、手工、彫刻、測圖、其他萬般の藝術、工藝、科學の方面に進ましむることは英米少年團の努めてゐる處で、我國の少年團はまだ其處まで進んで居らないが行く〱は此の方面にも努力する必要があると思ふ。私共は上述のやうな主義方針で遣つて居るのである。

强兵と富國

◎日清戰役から日露戰役までの我國は强兵主義であつて戰捷の結果軍閥の跋扈と共に多少それが驕兵主義となつた◎然るに强兵主義は其後一變して富國主義となり資本主義となり更にそれが一變して實利主義となり利己主義となつてしまつた◎兵强く國富まざれば國家を泰山の安きに置く能はず又他の國家と並び立つて世界の國際場理に馳驅する事も能きぬ◎併し强兵主義に走れば軍國主義の侵略國と成り易く富國主義に傾けば物質萬能の成金國と成り易いのは必然の勢である◎近頃政黨の表看板にまで書かれる樣になつた產業立國なるものは從來の商工立國に農を加へて稍々之を廣くしたもので要するに富國主義の變名だ◎强兵主義の時代には一方に尚武の士人的氣分があつて剛健質實といつた樣な所もあつたが富國主義になつてから尙利といふ商人根性が旺んになつて投機虛業の陋風や奢侈贅澤の弊習が限に餘る樣になつた◎大正八年は此の富國主義が最も頂上に達した時で之がために却つて財界を惡化し不景氣を招徠し延いて國家並びに社會の上に種々の弊患を發生せしめた◎孔子は不義にして富み且貴きは浮べる雲の如しと言つたが此際の致富は投機心といふ不義を動機にした浮雲の如きものだつた◎富國主義も斯うなつては民を害し國を毒するの甚だしきもので滿洲を今日のやうな病體にしたのも其の當時の富國主義の殃禍に外ならぬのである◎戰役當時に持囃された軍人は强兵主義が去つて富國主義が來ると共にお株を資本家や事業家や虛業家に取られてしまつた◎產業は農を本とすべきもので有るのに商工に重きを措き更に投機に熱中した爲め富國主義をして遂に斯くの如く墮落せしむるに至つたのである◎强兵主義や富國主義は要するに覇道だ覇道は智と勇とを本とし而もそれに役せられるので一時は爛熳と花の咲く事もあるが軈て間もなく凋落してしまう◎王道は然らず王道は仁を本とするから見榮ばはしないが盛衰興亡の上に超然として而も能く智と勇とを活かして行く◎何ぞ强兵とのみ言はん何ぞ富國とのみ云はん大義を四海に布くべきのみで王道の國たる日本は正義立國であらねばならぬ◎社會政策もまた此の大義を基としなければ全きを得ない强兵主義や富國主義に偏して國泰く民安かるべき道理はない。

無盡房學人

後藤子の警句と警告

無聴房學人

後藤新平子が來滿されて、交驩に、指導に、講演に、談話に、彼の堂々たる雄姿を以て、而も平民的に且熱誠的に應酬されたので、各方面に好印象を與へた、と同時に、陰鬱に閉ぢられて居た此の滿洲が急に明るくなつた樣に思はれた。

滿蒙から極東露領へ掛けての大陸には大風呂敷でなくては納まらない。時人稱して『後藤の大風呂敷』と言ふけれども、後藤子の大風呂敷には抱負と經驗が藏せられてあつて、如何なる事物も、如何なる人間も、十分に包むだけの力を有つてゐる。子の自ら言ふ如く、ハンケチ位な小さなもので、己れの小なるを自覺反省せずして、一概に『後藤の大風呂敷』と貶すのは身の程知らずである。大風呂敷を持合はさないケチな者に大陸經營の出來る筈はない。後藤子の曰くの通り、豚や驢馬で大沙漠を渉ることは出來ない、小人能く何をか爲さんやだ。

後藤子は講演にも談話にも警句口を衝いて出るといふ調子で、その警句には諷刺もあり、毒罵的のもあり、又一種の謎もある。能く味はつて見ると皆それ〴〵に妙趣を有つてゐる。『近頃は當座勘定ばかりして總勘定を忘れて居るものが多い』といふ子の警句は、寧ろ警告で、寸鐵人を刺すの概あり、而して此の意味は『大局の計を忘れて小事小計に齷齪する者が多くなつた』といふ事だらう。

旅順工科大學に關する後藤子の意見は實に堂々たるものだ。我々の言はんと欲する所を言ひ盡して殆ど遺憾なしである。僅かな錢勘定を土臺にして、此の意義ある大陸的文化事業の化身とも云ふべき工科大學を廢校しやうとしたのは、飛んでもない馬鹿な話だ。消極政策とやらも時には必要だらうが、錢勘定を萬事の基本として、不生産的だの、贅澤だのと云ふのは、ハンケチ程の幅さも持たない小さな量見の斗屑輩だ。斗屑輩が跋扈して、ケチな小刀細工をすると、不景氣の上塗りをするばかりで、人心を徒

らに萎縮せしむるに過ぎない。今日の如き時代においては、人心の鼓舞作興といふことが何よりも大切であるが、それには錢勘定を超越して、廣く大きく凡ゆるものを包み、人の心を自然と引立たせるやうにしなければならぬ。先帝陛下の五箇條御誓文の中にも『官民一途庶民に至るまで各其志を遂げ人心をして倦まざらしめんことを要す』と仰せられてあるではない乎。人心をして倦ましむるやうな事で帝國の大と强とを期することは出來ない。

艦艨海を壓して來るで、陸に後藤子の人心鼓舞があつたと同時に、海には我が聯合艦隊が海軍の精鋭を盡して威風堂々たりであつた。旗艦『陸奥』一艦の製造費が七千萬圓、魚形水雷を一ッ放てば二萬圓の金が飛び、艦上の砲口から放つ一發の彈丸だけでも四千圓に値ひすると聽くと、ア、不生産的なるかなと誰しも思ふだらう。然るに此の大不生産があつて國家を泰山の安きに置くことが出來るのだ。儲かるの儲らぬのと當座勘定ばかりして居るものには此處の道理が判らぬのだから困る。文化政策、社會政策若くは社會事業の如きも、小さな錢勘定をして、儲かるの儲からぬと云つて居た日には、その難有味の

判るものではない、大連灣に投錨した聯合艦隊の雄姿と、陸における後藤子の英姿と獅子吼と、自ら相對應して、時人の迷夢を破り、併せて珠算高いものを覺醒し得たとすれば、頗る幸甚だ。

生産と云ふことは勿論大切だ。財政も經濟も亦固より大切だ。併し世の中のことをピンからキリまで二一天作の五で彈き出す樣になつてはお仕舞だ。錢勘定ばかり喧ましく言ひ、總勘定を忘れて當座勘定ばかりすると、人間の心が卑しくなり、利己心が增長し、大和魂の骨髓たる尙武の精神と士氣が銷磨して了ふだらう。萬事が營利主義に流れると、物が殖ゑても魂が腐り、形が進んでも心が退くことになるから、種々の汚穢事が起つて、社會を害し、遂には國家を殆ふするに至るのである。物質文明の流毒を恐れよ、赤化など怖るゝには當らぬ、後藤子の大獅子吼を馱法螺など思つてはならぬ。

形進心退、これが日本の現狀であつて、同時に滿蒙の現狀である。後藤新平子の來滿はこの退嬰的萎縮心を鼓舞して吳れたが、眞に覺る所なくんば、更に形進心退し、折角明るくなつた大陸の天地が再び元の陰鬱さに逆轉してしまふだらう。

砂の如き民族

◎川島浪速翁は支那の漢人種を砂のやうな民族だと言つて居るが之れは漢人種の民族性を透見した至極面白い比喩である◎支那人殊にその漢人種は個性が利己的に發達した民族で砂のやうに一ツ〳〵各自に強い力を具ねて居るが團體心は乏しい◎商總會を初め支那にも色々な團體があつて團體的行動に出づる事あるも利害のために苟合する丈のものなので利害關係といふ膠がなくなると砂の本性を出してバラ〳〵になつて了ふ◎幾つかの勞働團體も出來たが之れも主として利害關係の上に結ばれて居るもので支那の新人に操られて居るに過ぎない◎支那に近代の株式組織の會社が滿足に發達しないのも此種の事業が支那人に適せぬのも要するに餘りに個性が利己的に發達した砂民族であるからだ◎支那が國家として眞に統一された時代よりも分裂抗爭の時代が比較的多いのは地廣く民衆きが故ばかりでなく其の民族性が個性的に餘りに強いからだ◎砂のやうに個性が強く利己心に富み利に敏捷なる點は世界の漂浪民族たるユデア人と兄たり難く弟たり難しだ◎彼の民族自決主義に刺戟されてユデア人も郷土パレスチナに猶太國を建設するとの事であつたが今にそれは實現されない◎孟子が梁の惠王に見ゐて『王何ぞ必ずしも利と曰はん唯仁義あるのみ』と言つたのは支那民族が古來極めて利己主義の民族であると云ふ證據になる◎利己心のない者はない我々日本人も資本主義的經濟の發達と共に餘程利己主義になつたが之を支那の漢人種に比べるとまだ何處かに士君が殘つてゐる◎支那には『不義にして富み且貴きは浮雲の如し』と云つた孔子や仁義を力説して利心の征服に努めた孟子が出で◎文天祥や揚繼盛のやうな忠魂義魄の優れた者も出で現代支那にも段祺瑞又は吳佩孚のやうな利に淡い人物が出てゐる◎がそれは謂ゆる珍種で支那人はこれを總體的に見て個性が利己的に強く發達した民族だ川島浪速翁の言ふ通り全く砂のやうなゴツ〳〵した民族だ◎勞働者として強く商人として強く賭博が上手でガバーに掛けて一種特別の腕を有つて居るのも砂民族たるが故である◎支那において事をなし又支那人に對するには此の民族性を十分に承知して居ないと鼻毛を讀まれる事にならう◎滿洲に在る日本人もしつかり知つて置く事だ。



勞働者の募集取締

社會局第一部長　河原田稼吉

勞働者の募集に付いては、從來各府縣において夫夫命令を以て取締り來りたるも、其の規定の內容區區に涉り、其の間に連絡統一を缺ぎ、勞働者の募集が廣く多數の府縣に亘りて行はるゝを常とする今日の事情に適合せざるものであつた。之が爲めに事業主は手續其他の上に種々の不都合を感じ、勞働者に取りては移動の自由を制限せらるゝ場合があり、各關係地方廳の間に於て重複した手續を行ふため、取締當局にも無用の日子と勞力及び費用を要したことが尠くなかつた。是れ今回內務省令を以て勞働者募集に關する統一的取締令を設け、手續の簡便を圖ると同時に、募集行爲の取締及び應募者保護の周到を期せんとするに至つた所以である。募集取締令の制定に付いては、昨年四月社會局草案を發表し、各地方廳及び當業者の意見を徵し、其の答申を斟酌して審議のうへ成案を得たのであつて、昨年末を以て之を公布し、本年三月一日より施行されて居る。此の勞働者募集取締令は全文二十八箇條より成る極めて周密なそしてまた嚴格な法令である。

此の取締令に付いて世人の注意を促したいのは先づ第一に勞働條件の明示である。單に勞働者を紹介周旋する場合にも勞働條件の明示は其の第一義であらねばならぬ。況んや之れを積極的に勸誘募集して父母その他保護者の膝下を離れしめ、その若い初めての勞働者を遠い就業場に連れ來る場合においては特に其の必要の多いことは言を俟たない。

それ故に本令に於ては募集主をして就業場の名稱及び所在地、事業の種類、就業時間、休日、夜業の有無、賃金、宿舍、食費、雇傭期間、解雇、制裁及び扶助救濟等に關する事項を明かにしたる就業案內

（又は雇傭契約書案）を作成せしめ、豫じめ之れを就業場所在地の地方長官に屆け出でしむることゝ爲しまた募集に際して此の就業案內（又は雇傭契約書案）は之を募集從事者より應募せむとする者に交付せしめ、且其の要旨を懇切に說明せしめ、應募者が其の意思を決定するに當り、豫じめ勞働條件に關する充分なる了解を有せしむることゝし、一面之れに依つて募集の公明正大を期し、他面之れに依つて後日に於ける紛議の發生を避けることゝした。

勞働者募集に伴ふ弊害は、主として募集從事者に其の人を得ざるに基因するのであるから、募集從事者の人選を嚴にし、之を信用する適任者に限らねばならぬ。是れ第二の必要條件である。此の故に募集從事者に付いては、其の身元及び素行等を知れる募集從事者の住所地所轄地方長官の許可を受くることを必要とし、一旦其の許可を受けたるときは、此の募集從事者は他府縣に於て募集に從事する場合に再び許可を受くることを要せず、募集行爲其のものに付いても許可を要せず、單に屆出でを爲すを以て足ることゝした。蓋し募集行爲自體は營業に伴ふ必然の現象であるから、之に對し許可制度を取る理由乏しく且、勞働者の自由移動と統一的國民經濟の發展を阻害することを恐れたからである。

募集從事者は募集に從事中許可證を携帶し且要求に應じ之を提示するの義務を免れ、許可證を他人に讓渡又は貸與し或は募集を他に委託することを得ざるは勿論である。此外募集に付いて取締の遺漏なきを期する爲め、募集着手屆、應募者の出發屆及び宿泊屆の手續を命じ、また募集に關し一定の行爲を禁止した。卽ち事實を隱蔽し、誇大虛僞の言辭を弄し應募を强要するを禁じ、女子に對して風俗紊亂の虞ある行爲を爲し、或は藝娼妓等に勸誘を試み、男子に對して遊興を勸誘し、又は其の案內を爲すを禁じた。其他應募者の外出、通信又は面接を妨げ、所持品の保管を强要し、又は其の返還を拒絕し、或は應募者の所在を隱蔽し、又は之を僞る等の行爲を禁止し、努めて不正なからん事を期し、以て應募者の自由と貞操とを保護することに意を用ゐた。

應募勞働者は募集主が積極的に勸誘して通常遠隔の地に連れ行くものなれば、後に至り事業主側の責に歸すべき事由に依つて歸鄉すべき場合は勿論、勞働者の過失に基かず已むを得ざる事由に依りて歸鄉

せざるを得なくなつた場合に、路傍の人の如く待遇し放置して顧みざるは穩當でない。此故に本令には就業案内が實際の事實を相當相違したるとき、或は募集主、募集從事者等が應募者に虐待凌辱を加へたるとき、又は募集主の都合に依り應募者の採用を爲さゞるとき、其他已むことを得ざる事由に依り歸鄕を必要とする場合に於て、應募勞働者の請求ありたるときは、募集主又は募集從事者は之が歸鄕に必要なる措置を講ずる義務あるものと定めた。

之を要するに、本令の旨とする所は、各府縣に於ける勞働者の募集に關する從來の取締規則を統一して無用なる手續を省略し、事業者及び官廳相互の便宜を圖り、時勢に適應せしめたると共に、一方募集の取締に付いて實果を擧げ、且應募者の保護を充分ならしめんことを期したものである。

職業紹介改正の要旨と臨時職業紹介

臨時職業紹介は行政整理に因る離職者の爲めに

職業紹介法施行規則改正要旨

守屋社會局第二部長談

職業紹介法は大正十年七月一日より實施せられたが同十二年四月一日より中央及び地方職業紹介事務局の設置を見るに至り更に昨十三年二月二十日職業紹介委員會官制を制定公布され中央職業紹介委員會は既に設置され近く地方職業紹介委員も任命される事となるであらう斯うして職業紹介機關の體系は漸次整備するに至つたが猶その內容の充實改善を圖り職業紹介事業の機能を十分に發揮するは言ふ迄もなく極めて緊要なることである殊に現時の失業狀態に鑑み一層これを痛感する次第である。

それで從來の實驗に徵し改善を要すべき事項及び今後職業紹介事業の發達を圖る爲め施設を要すべき事項等を考究し職業紹介法施行規則を改正さるゝこととなつた其の主要な點は季節的職業紹介所の設置を認めたこと卽ち毎年一定の季節に移動する勞務者

例へば漁業、養蠶、製絲、醸造、茶摘等の事業に從事する者の數は決して少くないので是等勞務者を專門的に取扱ふ職業紹介所を設置し一定の期間開所することを得べきことになつた又市町村は職業紹介所の事業の經營に關し職業紹介委員を設置することを得ることになつた而してその委員の中には使用者の利益を代表し得るもの及び勞働者の利益を代表し得るものを各同數加することを要することになつた猶ほ該委員は市町村長これを任免し職業紹介所の事業の經營に關し市町村長を補助し又その諮問に應じて意見を開陳することになつてゐる職業紹介機關はこれを利用する求人者も求職者も各自己のために設けられたるものであるといふ考を持つて希望なり意見なりを述べ以てこれが改善を促し而して最も圓滑にその實績を擧ぐることに助力したなれば蓋し紹介上その效果の見るべきものあるは疑ひなきのみならず延いて勞資の間の融和の上にも大いに效果があることゝ考へる此點において職業紹介委員の設置は極めて適切なものであると思はれる尚ほ附言して置きたいのは市町村以外の經營する職業紹介所において是等委員を設くることは何等支障なきこと勿論他においてもこれが設置は望ましきことである。

次に職業紹介事業の實績を擧ぐるために極めて緊要なるは職業紹介所の事業の聯絡統一を圖ることである此點に關しては從來統一的に又は具體的にこれを定めてなかつたので遺憾の點が少なくなかつた夫れで改正規則中には聯絡方法を具體的に究めこれを統制し勞務の需給調節の圓滑を計ることになつた其の要旨は成るべく一町村內で求人と求職者とを結合せしめ勞務の需給調節を計り若しそれで需要供給を調節し能はざるときはその地方における一定の地域（一府縣若くは數府縣）において需給を調節し順次その聯絡地域の圈內を擴大し地方職業紹介事務局をしてその管內において需給を調節せしめ最終には中央職業紹介事務局において全國的に勞務の需給調節を圖ることゝし指定職業紹介所、地方職業紹介事務局及び中央職業紹介事務局ではそれ〳〵聯絡日報を作成發行して脈絡を計り系統的組織の下に聯絡を執ることになつた以上は改正の主眼とする所であるが此くの如き系統的に組織的に規定せられ而して運用其宜しきを得れば將來職業紹介所網の完成と相俟つて效果の見るべきものがあらうと思ふ。

臨時職業紹介要領

内務省は行政整理に因り離職者の職業紹介方法につき調査中であつたが遂に左の如く決定した。

一、行政整理のため離職したる者に對し臨時職業紹介の事務を社會局内に於て取扱ふこと

二、內閣及び各省に於ける人事に關する事務を管掌する職員その他の職員に行政整理に因る離職者の職業紹介協議委員を依囑すること

三、前項協議委員には行政整理に因る離職者の調査に關する事務を依囑し相互隔意なく協議を遂げ以て職業紹介に努むること

四、中央及び東京大阪兩地方職業紹介事務局は各管內職業紹介を督勵し日本內地全國における銀行並ひに會社等各方面に亘り成べく廣く求人調査を行ひ各相互の聯絡を一層緊密にして行政整理に因る離職者の職業紹介に努力すること

五、行政整理に因る離職者中農業の經驗を有し又は農業を經營するに適當なる者にして北海道移住を希望する時は便宜を與ふること

六、行政整理に因る離職者にして敎員たる經驗を有しまたは敎員たるの資格を有する者にして小學校中學校、高等女學校、專門學校等の敎員に就職を希望する者に對しては出來るだけ方法を講じて之を斡旋に努むること

七、市町村其他公共團體の吏員に就職を希望する者には之が斡旋に努むること

八、官公營事業を調査し特別の事由なき限り行政整理に因る離職者を採用すること

九、植民地滿蒙方面その他の海外に於ける職業の需要に對し斡旋を爲すこと

十、前各項を實施するため閣省竝びに各地方官公署の援助を求むること

優良なる大阪市の社會施設

富豪や篤志家の力、大連市は鑑みよ

大阪市の社會施設は日本全國都市中の模範と見られてゐるだけ可なり整頓して方面も廣く成績も近來著しく眼立つて來たが大阪市では是等の社會施設に對してどの位經費を出してゐるかと見ると

職業紹介所
兒童相談所

簡易食堂	七九、六二三圓
住宅	二、三二二、六六七
共同宿泊所	三四、二一七
職業紹介所	六六、三四三
兒童相談所	五〇、二一一
産院	八八、九二二
少年職業相談所	一四、八三六
託兒所	四〇、三〇六
市民館	二六七、〇一七
共同宿舍	七五、五七五
青年宿舍	五〇、〇〇〇
市民病院	一、五〇〇、〇〇〇
住宅資金貸付	三、六九六、〇〇〇

等で今日までの支出總額八百五十九萬三千七百卅二圓である此の財源の内譯は政府の低利資金五百五十九萬六千圓、富豪又は篤志家の寄附二百四十一萬四千八百五十二圓の外に千五百圓の國庫補助があり夫等を差引くと市費支出は僅か五十八萬千二百廿圓に過ぎない而もこの支出の内五十萬圓は目下工事中の市民病院への投資であつて市民病院を除いた凡ての社會施設は殆ど市の手によらずに成育を遂げた事になつてゐる又主なる支出の低利資金は市が政府から借入れて一部を住宅會社の經營費に貸付け一部を市營住宅建設費に充てたもので此の分は家賃と利子だけで優に償還財源が見出されるといふから此の方面に關しての經營難もないわけである。

又市で受理した寄附金の中には岩本、岸本兩家の各百萬圓といふ大口があり岩本氏の分は中央公會堂の建設費に充當して社會施設に直接の恩惠は受けないが岸本氏の分は全部この方面に充當されてある市營住宅に充てた最初の四十二萬二千圓も大正七年の米騷動の義金によつたもので市民館もまたその恩惠によつて出來たものである近く又故吉田顯三氏の住宅提供があり之れは教育基金といふ條件で市ではまだ適當の費途を發見しない此の外低利資金によつて近く共同宿泊所と公設質屋を開設するがその他の事業として月賦住宅、アパートメントなどの計畫もありそして市ではこれ等の事業費を低資によるかさもなくば篤志家の後援によつてその經營を一層意義あるものたらしめたいと考へてゐるさうだ社會施設の貧弱な大連市では大いに鑑みて欲しい。

× × × × ×

第七回全國社會事業大會

第七回全國社會事業大會は五月十三日より十六日まで四日間東京において開かれる。開會式と總會は芝公園増上寺にて、部會は協調會その他にて開かれるのだが、第一日は開會式、總會、協議部會、公開講演會、第二日は協議會と公開講演會、第三日は協議部會、公會講演會、懇談會第四日は總會、御苑拜親、公開講演會。

此の大會の議案は第一部が兒童保護、第二部が敎化、第三部が經濟施設、第四部が衞生、第五部が救護事業、第六部が經營及び連絡で、更らに之れを詳記すると凡そ左の如きものとする。

第一部（兒童保護）＝胎兒、乳兒、幼兒、學童、貧兒、勞働少年、被虐待兒、不良兒、白痴兒及び浮浪兒等に對する保護。

第二部（敎化）＝矯風、禁酒、成人敎育、隣保事業、司法保護、異常者敎育、閑時指導等の外尙ほ圖書館の事業をも含有す。

第三部（經濟施設）＝住宅及び宿泊所供給、公設市場、公設質屋、授産、職業輔導、職業紹介の外尙は勞働者福祉事業等。

第四部（衞生）＝醫學、保健、防疫等。

第五部（救護）＝養老、窮民救護、軍事救護の外方面委員制度に依る所の救護。

第六部（經營及び連絡）＝調査、管理、後援、連絡、その他以上五部に屬せざる物。

又此の大會は從來の如く社會事業に關する協議の外その研究と宣傳をなし、社會事業關係等の親和を圖るのを目的とする。大會の協議會に協議員として出席し得るものは社會事業團體役員、社會事業從事者、各社會事業協會員、道府縣知事の推薦に係る社會事業に關する篤志の人々、關係官廳及び公共團體竝に公益團體等に從事する人々、其他特に必要と認むる人々等であつて、第一の部類のものに對しては協議會において適宜その數を定める。

總會には議長、副議長を各一名、書記二名、部會には部長、副部長を各一名、書記二名宛を置き、協議員は申出に依り所屬の部を定める。特に緊要と認むる問題に就ては專門家に依囑し各部會劈頭において之が報告を求むる事になつて居る。

支那勞働運動の一觀察



支那勞働運動の一觀察

田邊賴三

支那勞働運動の變遷

支那に於て勞働問題が社會的に認識せらるゝ樣になつたのは極めて最近の事である。機械工業が未だ幼稚の域を脱せず、國民一般に敎育が普及しなかつた關係上、勞資の間に於て自覺せる對等的觀念の如きものが毫も存在しなかつた。それが勞働問題の社會的認識を遲らした主なる原因であらう。

支那に於て組織的に勞働運動が起されたのは、千九百二十年三月香港を中心として機械工業從事者の間に企てられた同盟罷業と、それに同情して起つた同地に於ける一般勞働者の罷業である。次いで千九百二十二年三月同地に海運勞働者の同盟罷業が勃發し、これが又同地の各勞働者に傳播したるため、各地に同情的罷業が起り、之がために物資の移動に少なからざる障害を來たした。就中上海の如きは其の罷業のために同地方面に對する商取引が全く杜絶されて一時財界に非常なる打擊を與へた。

その他上海に於て煙草會社又は紡績工場等大組織の機械工業勞働者の間にも屢々同盟罷業の企てられた事がある。製糸業、電氣事業等多くの熟練せる勞働者を必要とする製造工業の勞働者の間においても同盟罷業の行はれた事があり、漢口、天津、武昌、湖南、廣東、汕頭、厦門、鎭江、青島等主要なる都市に於ても又同樣の經路による同盟罷業の勃發を見たる事がある。之等は槪して勞働者の生計問題の解決がその直接の動機となつたもので、大規模のものではなく、從つてその要求するところは何れも一として勞働賃銀の引上に非ざるはなかつた。

然るに過般上海を中心として行はれた紡績工の罷業を見るに、從來のそれとは甚だしく色彩を異にし經濟的色彩よりも寧ろ政治的傾向を帶び、反資本主義的氣勢を以て一致團結した。上海の日本紡績、日華紡績、内外棉花、同江紡績等は悉くその渦中に捲込まれたのである。今彼等の要求を見るに、賃金增加、時間短縮等の月並なる主張の外、今回の罷業の直接原因とも見るべき『日本人監督の腕力主義を抑壓するの建議』などあり、而してそれが殊に著しき點なるを吾等は見逃がしてはならない。

その背後に支那大學生があり、其の使嗾に依ることも併せて注意すべき事であるが、それ丈け今回の運動は極めて秩序的に訓練されて居り、從つて單純なる經濟問題以外、思想的に、將た政治的に、漸次彼等が自覺しつゝある證左としなければならぬ。元來支那には古來近攻遠交の傳統的習慣があり、此の傳統的習慣と相待つて、排外氣分は上下を通じての思想だが、此次の罷業にもハッキリとそれが認め得られる。此點も注意しなければならぬ。

支那勞働者に對しての待遇は、何人が如何に强辨したとしても、決して良好であるとは言はれない。物質的に見るも、精神的に見るも、彼等の生活を安定させるに滿足なものでなく、又彼等の人格を認めるには不十分であつたと謂はなければならぬ。最近の上海紡績業の上に起つた罷業が日本人の腕力沙汰が導火線となつたのは、强く、烈しく、深く、亦長い間の彼等の不平の勃發と觀て可からう。

罷業と其の原因

斯くの如く支那に於ては數次の同盟罷業の發生を見たが、最近の上海を中心として勃發した紡績工の罷業迄は主として經濟上の要求がその大部分を占め大體左の如き場合に多かつた樣だ。

一、米價の暴騰したとき。

二、米價及び一般物價の暴騰したとき。

三、勞働者に支給せられる勞働賃金が銅貨對小銀貨の比價に甚だしい懸隔があり從つてその支給せられたる銅貨に依りて物品を購買するに當りその蒙むる不利益の夥しきとき。

四、勞働者の勞働賃銀が小銀貨にて支給せられて居るとき而して小銀貨對大洋の比價差額に懸隔あるために不利益を蒙る場合。

支那勞働者の種別

支那に於ける勞働者の一般を記す前に先づ勞働の

種別と作業の概略を述べて見たい。支那の勞働者は(一)農業勞働者、(二)機械工勞働者、(三)手工勞働者、(四)不熟練勞働者の四種類に分つことが出來るが、是等四種の勞働者は更に農業勞働者(小農、苦力)、機械工業勞働者(熟練勞働者、不熟練勞働者)手工業勞働者(家内手業勞働者、工場勞働者)不熟練勞働者(苦力、鑛夫)等に分つことが出來る。今一九一五年に於ける是等勞働者の總數を調べて見るに、機械勞働者の總數は六十三萬一千名を算し、之れが約二萬一千七百の工場に從事して居るのであるが、之を工場平均に見るに三千名弱の職工が働いて居るわけである。次に不熟練勞働者は約四十一萬を算し、工場數六千三百に夫々從事して居り、平均一工場に六千五百の勞働者を收容してゐる。

支那は最近漸く産業革命の黎明期に入つたもので前期の如く使用職工の尠きは、小規模工場の多きを表はす證據であらう。今日の支那に於ては的確なる統計を得るに困難であるが、稍信ずべき數を以て參考のため全國勞働者の總數を掲げて見れば、推定勞働者數九二・一五五・六六〇人であつて、此の內譯は農業勞働者の數が六〇・二六〇・〇〇〇人、機械工業勞働者の數が六三〇・九八〇人である。

農業勞働者中小農は日本の小作農と同じで、農業苦力は日本の農業日傭者又は作男に相當し、機械勞働者及び鑛業苦力の內その前者は機械工業職工であり、而して其の後者は坑夫である。今是等の勞働時間を列記して見れば凡そ左の通りである。

一、上海紡績工場十二時間
二、唐山炭鑛　一日を三班に分ち一班八時間
三、博山炭坑　唐山炭坑に同じ
四、上海、德州、漢陽兵工場　一日九時間乃至十時間
五、鑛山勞働者中坑外勞働者　一日十時間乃至十五時間

各種の勞働賃銀

最近支那工業の勃興は殆んど上海を中心として爲されつゝあるが今同地に於ける是等勞働者の賃銀を調べて見るに大體左の如くである。

	最高	最底
▲手工勞働者		
鑄物工	〇・八〇	〇・三〇
建築工	〇・八〇	〇・三〇
石工	〇・六〇	〇・二五
木工	〇・八〇	〇・三〇
染物工	〇・六〇	〇・二五
▲機械工業勞働者	最高	最底
奉天造幣局	二・六七	〇・二六

天津造幣局	一・六〇	〇・一四
漢陽兵工廠	二・〇〇	〇・一三
四川兵工廠	二・八二	〇・一二
廣東兵工廠	一・九〇	〇・一四
江南造船所	二・九二	〇・一七
福州船政局	二・五〇	〇・一二
吉路鐵道局	一・四〇	〇・三〇

是等は官營工場從業員の賃銀で、民營工場に比しその率は遙かに良いやうである。更に飜つて之れを一般民營の工場に見るに、其の賃銀は

造船工	二・〇〇	〇・三〇
印刷工	一・〇〇	〇・三〇
機械工	〇・七〇	〇・二〇
紡績工	〇・八〇	〇・一〇
豆粕製造工	・四〇	〇・二〇
壓搾棉花工	・五〇	〇・二〇
罐詰工	〇・五〇	〇・二〇
織布工	〇・五〇	〇・一五
製紙工	〇・四〇	〇・一五
煙草工	〇・四〇	〇・一〇
燐寸工	〇・四〇	〇・一〇
製糸工	〇・五〇	〇・一〇

であつて一般にその勞銀は低いのである。

勞働者中最も多數なるは普通謂ふところの苦力であつて、彼等は工業と密接なる關係を有つて居るが併し農業苦力と鑛業苦力とがその大多數を占めて居る。今その賃銀を示して見れば左の通り

▲撫順炭鑛苦力	最高	最底
熟練せる者	一・五〇	〇・七〇
不熟練者	〇・五〇	〇・四二
臨時雇人	〇・二〇	〇・三二

鑛山勞働者の賃銀は時間に依りて支給するものと其の能率に依つて支給するものとの二つがあるが大體に於て時間制に依り出來高の多寡に依りプレミアムを附けるものが多く行はれてゐる樣だ。撫順炭礦においての採炭華工は能率拂ひとしてある。

勞働者の生活狀態

支那に於ける勞働者の生活は一般に低級で勞働能率も之に應じて低い。今勞働者の生活費を百分比率によつて見れば、食費五七・五〇、被服費七・五〇、住宅費七・四〇、臨時費二七・五〇右の率であつて食費が大部分を占め、被服費及び住宅費は略々食費の四分の一に該當してゐる。支那人勞働者の生活狀態が極めて簡易で、從つて其の生活費の低廉なることは、世人周知の以上であると言へる。

支那勞働問題の對策

支那勞働者の現狀は一言にして盡せば未だ自ら爭議を惹起するほどの可能性を持たないと言へる。比較的大なる爭議として世人を驚倒せしめたる前年の廣東に於ける罷業事件は、背後に之を繰つる人あり今回の上海に於ける爭議も亦黑幕ありと稱されるに依りて看るも、其の程度を知るべく、支那勞働者自ら反資本主義の旗を飜して待遇改善を絕叫する迄には尙多くの時日を要することゝ思ふ。

彼等の原始的なる生活は勞銀を廉にし、敎育の乏しき結果は盲目的勞働に從事するも滿足し、敢て資本家に對して挑戰的態度を取らない。併しながら民族の自覺は世界の潮流で、支那人勞働者の間にも是等の思潮が漸く漲り來りつゝあるのは事實であつて比較的開化せりと云はるゝ南方勞働者の間には、勞働運動に興味を持ち、反資本主義の態度を漸く露骨に表明して居るものが多くなつたと云ふから、餘りに之れを輕視してはならないのである。

言ふ迄もなく今日の滿洲工業界は悉く支那勞働者が原動力となり、緯となり、經となり、以て諸機關が圓滑に運轉されつゝあるのであるが、萬一眞の勞働爭議が滿洲の天地に波及し來つたならば何うであらう乎。況や背後の人ある場合に於てをや。如何に柔順にして無智なる彼等と雖も、此の場合には、必ずや自主的に或は他働的に生活の向上を策し、環境の打開を絕叫せねば已むまいと思ふ。

これ等のことを考へ、飜つて滿洲の現狀を見るに產業政策の確立と並行すべき支那勞働者の對策がまだ出來てゐないのは甚だ遺憾に堪ねない。私は支那人勞働者の待遇の改善を提唱すると同時に、關東廳及び滿鐵に向つて、勞働問題に關する一大調査機關を作り、以て支那人勞働者に對する對策と善後策を講せられんことを望んで止まない。

偶成　筆の人

たゞひ身は野邊の屍と朽つるとも
とゞめ置かまし大和魂

○

筆はよし果敢なくもあれ我がこめし
魂の力ゆやはか滅びむ

簡易生命保險の成績

在奉天　田原漢東

滿洲の簡易保險は大正十一年十一月より實施されたもので本年の三月で丁度二年五箇月を閲した。簡易保險の性質及び內容は今更茲に說く迄もなく一般の周知する處であるが、過去二年有半の間に於ける成績は怎うであるか、筆者は其の一班を知るべく奉天郵便局に就て開始以來の加入者の增減及び死亡契約者等を調査した。今其の概要を記さう。

奉天は大連に亞ぐ大都市で邦人在住者一萬八千餘を算して居るが、關東廳遞信局は保險の開始當時大連と奉天に主力を注ぎ、加入者の大募集を開始した此の結果、大正十一年度は僅々五箇月間に契約者數實に三千二百二十五口、保險料金四千五百四十圓八十錢、保險金額七十六萬一千二百七十二圓六十錢と云ふ成績を擧げた。爾來引續き宣傳又は局員の戶別訪問等間斷なく勸誘に努め、大正十二年度は多少成績不良なりしも、大正十三年度に入り再び良好となつた。而も此の兩年度とも一箇年を通した加入者數は初年度の五箇月間の加入者數と大差がない。此の現象は當然のことで二年度以降は初年度のやうな加入數を得るのは出來ないとの事である。因に大正十二年度より十三年二月末までの加入者數、保險料金保險金を表記すると左の如くである。

年度別	加入者數	保險料金	保險金
十一年度	三、二二五	四、五四〇・八〇	七六一、二七二・六〇
十二年度	二、三九一	二、八〇二・八〇	四九四、三四九・二〇
十三年度	二、九三二	三、二三三・二〇	五七六、〇九一・九〇
合　計	八、五五六	一〇、五七六・八〇	一、八三一、七一三・七〇

右の內で養老保險と終身保險を區別すると

養老保險

加入者	保險料金	保險金
七、四二〇	九、五八八・五〇	一、六九六、三一九・四〇

終身保險

加入者	保險料金	保險金
一、一三六	九八八・三〇	二五四、三九四・三〇

▲**解約處分**　最近の調査に依れば、契約者の中で加入後保險金の支拂澁滯に依り失效處分を受けた者は一千六十五人で、此の保險料金一千二百九十四圓三十錢、保險金二十三萬一千四百七十八圓三十錢に達した。郵便局としては簡易保險の趣旨に則り飽まで加入者を有利に導くべく或程度までは規定以外の便宜取扱をして居るが事務の整理上已むを得ないものは遺憾ながら失效處分にする。次に事情已むを得ないで中途契約を解いた者に對しては、契約後三年に滿たざる者には積立保險料金の八割を、三箇年以上一箇年を增す每に一步宛を增し、最大限度を九割九分とし、此率に依り直時償却を行つて居るが、開始後奉天郵便局取扱の分で此種の解約者は百十九名に達し、償却金總額は九百六十九圓十九錢であつたと云ふことだ。以上を合計して其の口數一千百八十四口、金額二千百六十三圓四十九錢であつて、總加入者の約八分の一に相當して居るわけである。

▲**死亡者支拂**　簡易保險の被保險者は年齡に制限が加へられてあるが、體質及び病疾等に關しては他の生命保險等に比較して餘程寬大なる取扱をして居る關係上、比較的死亡者の率が多い。死亡者の保險金支拂率の如きも被保險者に頗る有利であつて、一箇年未滿の被保險者の場合は保險金の全額を支拂ひ一箇年以上二箇年以下の者には保險金の半額を、二箇年以上の者には全額を支拂ひ、猶ほ傳染病で死亡したものには特別に全額が支拂はれる。今日までの死亡者數は四十九名で支拂保險金四千二百六十四圓五十錢に達した。死亡者の多くは傳染病患者で、中には馬賊の兇刄に斃れた者もあるが、傳染病のうちでも別して流行感冒が過半を占めて居る。

▲**貸付狀態**　玆に記する貸付は、簡易保險局より融通する低利資金の貸付を指すものでなく、被保險者が自己の保險料金の範圍内で特別の事由に依り便宜貸付を受けるものである。滿洲にも大正十二年度には關東廳遞信局を經由して簡易保險局の低利資金二十五萬圓が放資され、奉天に於ては滿鐵社員の共同社宅資金として一萬圓の貸下を受けたが、該貸付金の規定は日本の社會事情をスタンダードとして制定されたものなので、事情を異にする滿洲には其の適用範圍が極めて狹少である。此の結果、該低利資金の恩惠に浴することが薄いので、特に被保險者の保險料の範圍内で年五分の低利を以て貸付が行はれ

て居るのである。實施以來奉天郵便局で貸付けた此種の貸付は件數二十七件の金額四百二十一圓である借受者の大部分は保險料金の支拂に困難を訴ふるため保險契約の繼續上一時融通を仰ぐもので他に使用する者は今のところ極めて少數である。然し追々と保險料金の增加するに從ひ低利なる此の保險料金の融通範圍は增加すべく豫想されて居る。

▲**加入者の內容**　被保險者の職業別は今のところ統計の據る可きものがなく、男女別も年齡別も關東廳遞信局の統計に俟たぬと判然しないが、大體の處では俸給生活者六分その他が四分といふ割合である警察官吏や郵便局吏員の有資格者は全部加入して居るが、此の外滿鐵會社の關係者、銀行又は會社のサラリマン階級も大部分加入して居る。男女の割合も男子が大部分で約七分を占めて居るが、總じて商業方面における有資格者の契約率は不良である。而して現在の集金票數は六千四百六十一で、人口の三割四分四厘に該當し、契約數は有資格者の四割七分八厘に達して居る。大要此の如く狀態であるから尙ほ充分活動の餘地が存して居る譯である。

▲**奉天の資格者**　最近の調査に依る奉天在住邦人は一萬八千六百七十一名此內、簡易保險加入資格者卽ち滿十二歲より滿六十歲に至る者は

男　子　七千四十一名
女　子　六千四百五十二名

で、奉天における現在の總人口に比し男子は三割七分六厘、女子は三割四分五厘に當つて居る。無資格者卽ち一歲より十一歲に至る者は

男　子　二千五百五十名
女　子　二千三百六十六名

で、總人口に比し男子は一割三分六厘、女子は一割二分六厘に當る。更に六十歲以上のものは

男　子　百二十二名
女　子　百四十名

で、前者は六厘、後者は七厘に當る。卽ち有資格者は男女合計一萬三千四百九十三名で、總人口の七割二分一厘に當るわけだが、現在の保險契約者八千五百五十六名は其の四割七分八厘に相當するから、人口との關係から考へてみて、尙ほ四千九百三十七名の有資格者を殘して居ることになる。

▲**各地との比較**　更に大正十四年二月末現在の成績に依る大連、奉天、長春、安東等各主要地の比較

表を見ると即ち左の如くである。

地別	口數	保險金高
大連	二五、七二六	一、七〇六、〇三一・七〇
奉天	八、五五六	一、八三一、七一三・七〇
安東	五、八一五	一、一五六、五三八・七〇
長春	七、〇一八	一、六二八、七九四・四〇

此の契約數を人口に比較して見ると

大連	四十九割四分三厘
奉天	四十六割六分八厘
安東	四十一割二分〇厘
長春	六十二割六分〇厘

であつて、長春が最優良の成績を示し、大連之れに次ぎ、奉天は第三位に位して居る。

大體の狀態は斯くの如くであるが、前述した通り奉天には尙ほ四千九百三十七名の有資格者があるので、郵便局では斷ねず新加入者の募集に從事して居る。本年度は有資格者全部を加入せしむる爲め、四月下旬より大々的活動を開始する筈で、已に奉天郵便局長の名を以て有資格者に對し一々極めて懇切なる勸誘狀を發したと云ふことである。

附屬地に遊興税と雜種割賦課

決定せるに非ず研究中のものなり

滿鐵會社は地方公費の增收と共に奢侈の風習を矯正する目的の下に、沿線附屬地全般に亘り遊興税を實施し、同時に借家に對する雜種割賦課をも施行すべく、之れを奉天地方事務所に諮詢する所があつた地方事務所は直ちに該案實施の可否に關し奉天地方委員會に諮つたところ奉天地方委員會では借家に對する雜種税賦課は贊成なるも遊興税の實施は時期尙早なりと決議して回答した。本問題に對しては猶ほ滿鐵本社に於て研究し居るもの丶如く、今のところ實施如何は未定であるが、若し實施さる丶曉、奉天地方區の公費は現在より何程の歲入增加となるかと云ふに、現在の奉天附屬地内における藝妓、舞妓、酌婦、幇間、中國俳優等の花代年額は約八十餘萬圓であるから、尠くも年額三萬圓の特別收入を見るべ

く、之れに借家に對する雜種割約一萬圓を加算すると、年四萬圓內外の增收となる豫想である。之れと同時に奉天居留民會側でも同一制度の遊興税を實施すれば、年額一萬圓の特別財源が生ずるので、實施の如何に就いて三業組合側と協議したところ、組合側が猛烈に反對したので、滿鐵附屬地內に實施さるる事あるとも、民會區域內には今後暫らくの間之を實施しないことに決定した。滿鐵會社の起草した此の規則案の內容を揭ぐれば左の如し。

雜種割規則案

第一條　遊興とは名義及び場所の如何を問はず藝妓舞妓、幇間、酌婦又は中國人婦人俳優を招致し金錢を消費することを謂ふ。

第二條　遊興に對する雜種割は花代を標準とし藝妓舞妓、幇間に對するものは其の百分の五、酌婦並びに中國人俳優に對するものは百分の三を賦課す但し税額十錢未滿の端數を生じたるときは四捨五入して之れを十錢單位に止む。

第三條　本税の徵收義務者は遊興者より花代を受領すべき營業者にして其の營業者は本税領收の證として花代領收書に會社の發行する税票を必らず貼附消印するものとす。

附　則

本規則は大正十四年四月一日より實施す

(一)本税新設の理由　(イ)公費收入の增加を圖る但しその收入概算年約十四萬五千圓とす。(ロ)遊興は個人的享樂の爲めの消費にして、一の適當なる擔税力を表示し居るものなるを以て、之れに課税するは負擔の公平上合理的なる事。(ハ)奢侈の風習を矯正するに效果ある事。

(二)課税物件　課税物件は花代とす。玆に花代とは藝酌婦等を招致の對價として支拂はるゝ一切の費用を云ひ、第一條規定の如く招致の名義及び場所の如何を問はざるが故に、宴會等の名義を以てする場合、料理店、貸座敷、其他之れに類する場所以外の場所をも含むものとす。又招致とは必ずしも遊興者の傍に待せしむるを要せず。卽ち謂ゆる芝居花の如きものをも含むものとす。

(三)税率　藝妓、舞妓及び幇間は花代の百分の五酌婦及び中國俳優は花代の百分の三の率とす。藝妓、舞妓、幇間と酌婦及び中國俳優を區別したるは擔税力を異にすと認めたるを以てなり。

(四)免税照　免除照は之を設けず。本税が奢侈消費税の性質を有する以上、少額の遊樂税を支拂ふ

者のみが免税せらるゝ理由なし。且つ課税物件を花代のみに限る以上、負税照を設け居る爲め、甚だしく徴收の煩雜を來すの虞あれば也。

(五)徴收手續　納税義務者は元より遊樂者たるも徴税の便宜上、營業者を以て徴税義務者とす。玆に營業者とは料理店、待合、貸座敷、飲食店、檢番等、其の名稱の如何を問はず、遊樂者より直接花代を受領すべきものを謂ふ。而して營業者は會社の調製する税票(種類は十錢、二十錢、五十錢一圓の四數)を豫め購入し置き、花代受領の際その領收證に税額に相當する税票を貼附し、而して之れに消印するものとす。尙ほ營業者に對し徴税義務を負はしむる報酬としては會社は税票を額面の上の一割引にて拂下ぐるものとす。

借家に對する雜種別規則案

第一條　貸家とは現に貸家しあると否とを問はず賃貸し得べき一切の建物を謂ふ

第二條　公費區内に貸家を所有する者其の公費區の戸數割負擔の義務なきときは其の貸家に對する雜種割を納むる義務あるものとす

第三條　貸家に對する雜種割は賃貸價格を標準とし其の百分の二の割にて之を賦課す

但しその賃貸價格金三百圓に滿たざるものに對しては之れを賦課せず

第四條　前條の賃貸價格は賃貸人が當該年度に於て收得すべき賃貸料收入豫算年額に依る

但し賃借人に於て其の建物に對する修繕費其他建物の維持に必要なる費用を負擔すべき場合に於ては賃貸人の收得すべき賃貸料收入豫算年額に該費用豫算額を加へたる額に依る

第五條　本税を納むる義務ある者又は其の管理人は毎年四月一日現在に依り同月五日迄に左の事項を地方區長に届出ずべし

一、建物の所在地、構造、坪數、賃貸價格

二、所有者及び管理人住所姓名前項の届出でなき時は地方區長之れを査定す

春の句

活惚れたチョツキで踊る櫻かな　不耳
處士の家貴族と隣り櫻かな　同
移植せし櫻咲くなり表忠碑　同
花の句推敲三日散る便り　空鳥
御手植の斷碑再建の櫻かな　同
檜皮ひたす流れや木の芽時　射石

社會問題彙報

簡保の低資を滿洲へも貸付

大連市を初め奉天、長春、旅順その他在滿各地では簡易保險局の保險金を利用したく遞信局の手を經て之れが借入れ方について折衝中であり遞信局に於ても簡易保險局の金を有利に滿洲において社會事業その他公益事業に投資したい希望を有し保險局と交渉中であつたが同局でも種々審議した結果愈々滿洲に對しても保險局の金を利用せしむ事となつて先づその第一に大連市沙河口第一住宅組合に貸付くべき金二萬圓を遞信局に送つて來た既に滿洲に貸付る事になつた以上は今後各地より請願して居る借入金も遠からず貸付になるべく滿洲各地の社會事業も爲めに霑ふことになるだらう右につき櫻井遞信局長は語る。

簡易保險の金を滿洲でも使ひたいと云つて之れが交渉を初めたのは久しい前であつたが手續きや其他の關係で荏苒今日に至つたがヤツト沙河口の第一住宅組合を先頭に目的が達することが出來た保險局の貸付の要件は一般社會事業のものゝみに之を貸付ける事になつて居るので今後は滿洲も此種の金が多少とも有利に使はれる事であらう滿洲では長春、奉天、旅順其の他の地よりも申込んで居るが之れも遠からず借受ける事が出來よう簡易保險局の貸付利子は他の如何なる金よりも安く今度の沙河口住宅組合へ貸付けるのは僅に五分三厘と云ふ極めて安い利子であるから此の種の事業には何よりも仕合せである云々。

學校卒業生の就職難と失業

俸給生活者の失業は社會の凡らゆる方面に暗い影を投げてゐる昨年の十一月から幾度も行政整理で次から次と職を失つたものは四萬の多數に上つてゐるが今日までに生活の道を得てゐるものは僅に二割に過ぎないといふ悲慘な狀態にある併し是等のものは多少とも社會の荒波に揉まれて相當に苦勞もして居り辛酸も嘗めてゐる人たちで浮世の浪を乘り切る手腕と度胸を持つてゐる人々であるが未だ一度も浮世の風に當つたことのない室咲きのやうな學校出の青年で社會に一歩も踏みかけないうちに早くも就職難の苦しみを味はなければならない現狀にあるのは氣の毒な次第で是等の失業者續出が彼等の純なる頭にどれ程の不安を感ぜしめられるかは次の事實によつても頷かれる卽ち大學出の學士や專門學校出の相當地位あるものが職業紹介所の門を潜ることは敢て珍しくもないが夫れ等の者の總べては謂ゆる失業者であつて而もまだ一度も社會へ出たことのない之れから學校を卒業すると云ふものが在學中に早くも就職口を職業紹介所へ依賴して來るといふ有樣で全く前例のないことだ萬世橋の東京府職業紹介所の如きは昨年の十一月頃から續々此種失業者の申込があり大學生だけでも二百名に達した。

彼等の要求する條件といへば「いくらでも可いから使つて貰ひたい」といふ類であるが更に深刻なのになると「生かして置いてさへ吳れゝばよい」といつて居るものさへある十數年前は大學の卒業證書さへ持つてゐれば社會が爭つて椅子を空けて待つてゐた程でこれと比較すれば今昔の感に堪へぬわけであるそれで今日までに就職口の極まつてゐるのは帝大、早大、慶大などで僅に全卒業生の三割に過ぎず其他の私立大學や地方の專門學校などは殆ど一割にも達してゐない然も辛うじて就

普選と無產階級の結黨準備

職したものでもその待遇は帝、早、慶の各大學で四十五圓から六十圓の間を普通とし爾餘のものに至つては三四十圓を得られゝば精々であるといふ然るに斯うした失業者續出の不安は卒業者のみに止まらず大學、高等學校等の在學生にも及んで前途の不安から廢學又は休學するものが多く東京帝大の如きは之がため穗積、山田の各博士や學生等によつて學友會救濟部が組織され學生の相談や學資援助に當つてゐるが今は救濟部の手にも負へなくなつて現に先ごろ穗積博士が東京府の紹介所を訪れて學生救濟を訴へたほどで紹介所でも極力この學生援助に當つてゐるさうだ。

支那の公娼及び私娼の裏面

所謂淪落のどん底に突落されて旦に夕に吳越の客を送り人生の春を暗黑の裡に過ごし行く支那の公娼私娼の裏面を觀察すると隨分涙の滲むやうな哀話が秘められてゐる彼等の多くは表面上抱主の養女となつて居るが此の養女なる語は可憐なる彼女等が金の犧牲となつて居ることを頗る雄辯に物語るものであるギヤツと此世に生を享けて父母の顏も名も知らぬ内に人買の手に轉賣されると買主はこれに對し養女といふ名目を附して盛んにその骨をしやぶり血を吸ふのである當大連で此等神の惠みから遠ざかつた運命の下に在りながら絕望のどん底に沈淪して世を呪ひ人を呪つてゐる女の多いのは何んと云ふても第一に指を小崗子に屈しなければならない彼等が日夜血も涙もない氷のやうな抱主の虐げに泣き遂に耐ね切れなくて保護を同地の警察官憲に向つて哀願して來るものも決して少くない。

市面の蕭條に由りて遊客なきを鬼の如き抱主は直ちに以て彼等の責に歸し聽くも恐しい虐待を可憐な彼女等の身體に與へつゝある例へば點火せる線香を兩手に持たせたり盥に冷水を充たして之を支へしめるが如き虐待は單に其の表面に現はれた實例の一つにしか過ぎない深く立入つて彼等の內狀を探れば如何に慘酷にして惡みても餘りある虐けが潜んでゐるかと云ふことが窺ひ知れるソコで所轄小崗子支署では力の及ぶ限り調査してこれ等薄命に泣く娼婦を地獄の苦みより救ひ出し一方又冷酷鬼の如き抱主に對し容捨なく痛棒を加へんと努力してゐるが如何せん言語、人情、風俗を異にせる彼等の內面には思ふやうに救ひと懲しめの手の屆かない恨みがある從つて心ある人々は一面社會人心のため一面又薄命に泣き世や人を呪ひつゝある可憐なる支那娼婦に熱き同情を寄せ出來る丈けその內面を探索し其の由つて來る所を突止め以て之れを救ひの道に導き一方狼の如く鬼の如き抱主に制裁を下して見たいと思ふと云つてゐる。

普選と無産階級の結黨準備

大旱に雲霓をのぞむやうな氣持ちで一齊に政治界へと乘り出すべく普選實施の日を待つてゐた無産階級の各團體は俄に溢れるやうな活氣を呈して來た就中勞働團體の殆んど總ては豫てその通過を豫期して普選を前提とする無産政黨の組織を可決し歩一歩と組織の準備を進めてゐた折柄とて「いよ〳〵通過」の聲に刺戟されて早くも色めき亘り樹立促進の叫びが揚がり出した關西では勞働總同盟、農民組合、官業勞働總同盟等が中心となつて今春早々大阪で勞働組合協議會を開いた之れは無産政黨組織を中心として互に連絡をとり合ふためのもので海軍聯盟など日本の大きな組合の代表者が一堂に集まつたが些細の感情問題から一頓挫を來してゐるが恐らくはこれを動機に近く會合するだらうとのことだ。

一方個々には總同盟では政治部の活躍と共に全組合員に政治敎育の普及徹底を急ぐ段取りが整つて居り「政黨の樹立は決して急がぬ、

實質がこれに伴ふやう十分準備したい」と云つて居るが何となく緊張の空氣が漲つてゐる農民組合でも既に設けてゐる政黨組織準備委員會の活動と相俟つて地方農村の情勢を調査中である此の外に大阪では純向上會を中心とする一派や商業使用人を中心とする一團も普選案通過と聞いて歡びの聲を擧げた從つて今後は政治研究と政黨問題とでそれ〴〵に目まぐるしい交渉や活躍が初まるらしく此の新氣運と相待つて今年のメーデーには「徹底的普選」といつた意味の綱領や標語が掲げられるであらうと農民組合では語つてゐる。

虐げの鞭に泣く憐れ一笑婦

大連市内小崗子泰公街の淫賣屋石成富の養女に周永蘭（二一）と云ふ支那人としては盛りを過ぎた一笑婦がゐるそれが此の三月廿八日抱主の虐待に堪ねられず且つ幼いときに生別した父母戀しさの念にかられて小崗子署保安係へ保護願を差出した今その内容を聽いて見ると支那笑婦には有勝ちとは云へ涙の滲むやうな哀話が彼女の過去現在を包んでゐるのである彼女は直隷省大名道南宮縣の周來陽の二女として生れ出たのであるが赤貧洗ふが如き生家の窮迫は永く彼女を父母の膝下に育たせしめなかつた彼女が十三歳のとき同郷の人實張某（三〇）に甘言を以て誘拐され保定府に連れて行かれ其處で蕾の花を破られ三年間賣春婦として辛き年月を送つた末更に十五歳のとき九十圓で現在の養父石成富に買はれ爾來浮草のやうに各處を轉々として悪辣な養父の餌となつて來たが十六歳山東省芝罘に渡り更に其年の八月大連に連れて來られそれから毎日毎夜吳越の遊冶郎に接して所謂生ける屍の如き身を以て猛獸の如き男の色慾の犧牲となり一方貪慾飽く所を知らざる鬼の如き養父母の冷たい待遇に泣いて來たのである。

然るに昨今の不景氣風は啻に日本花柳界のみならず彼等淫賣屋にも影響し客足殆ど稀となつたので石成富の妻姚氏は之を以て周永蘭の客扱ひの悪い故だと日夜殘酷なる虐げの鞭を彼女に與へた父母に生別して十有餘年身は人世の惠み遠き淪落のどん底に沈淪しつゝも其の幼時慈愛を以て育まれた父母の溫情に溢れた顏は夢寐にも彼女の荒んだ胸から離れなかつた一方虐げの鞭が急になればなる程彼女をして父母戀し故鄕の山河懷しの念は彌增して來た結果遂に耐へ得られずに前記の如く保護を願ひ出でたのである彼の女は係官に父母は十三のとき別かれたのみですが確に健在と思ひます妾も鬼のやうな養父母に對しては今までの苦境が充分その養育の恩を充たしてゐると思ひますから此の上は何卒一日も早く生みの父母の許へ歸して下さいと窶れきつた面に涙を浮べて哀願した物心覺ねてより慘忍なる悪魔の手に弄ばれて人生の半に達した彼女も斯くしてしみじみと眞の人間愛を渴望して來たのであるソコで係では近く眞相を取調べ出來るだけ救助の道を講ずる由である。

問題の土地が電園擴張用地

大連電氣遊園の下には小崗子行きと聖德街行きとの兩電車線路に挾まれた約一千四百坪の三角形の空地がある右は好景氣時代に中央土地株式會社に貸下げられ同會社ではそこに宏壯な中央ホテルを建築する豫定であつたが其後の不景氣と新大連驛が豫想を裏切つて略略現位地に建てられることに決したので遂に建築に着手するを得ずその儘ずる〳〵と要領を得ずに經過して來た仍つて民政署でも斷然中央土地會社への右貸下許可を取消し電氣遊園擴張のため滿鐵に借下げることに決し既にその指令を出すばかりになつて居る。

若し央中ホテルが建築されたら電氣遊園は見晴しが悪るくなる計りかホテルの裏を見せ

られて非常に形勝を損するので公園關係者の憂慮する所であつたが上述の如く合併することに決したので遊園事務所では近く地均しに着手し暫く博覧會の第二會場として使用した後先づ樹木植込みをなし現在の正門をこゝに移轉することに決定した更に同遊園では現在のローラースケート場の建築を取拂つて動物の標本は舊射的場に移しスケート場は堀返して砂を入れ眞中に手洗場を作つて小供の砂遊場とする豫定でこれも近く着手することになつてゐる又將來はボーリング場、電園館、圖書館の三バラックも取拂ひ圖書館は現在の支那料理東瀛閣を改造してそこに移轉する計畫もあるさうだから若し此の新しい計畫が實現したら電園の面目は一新するだらう。

大阪の職業婦人と其の收入

大阪府社會課は大阪初めての試みとして職業婦人の勞働調査を開始し昨今調査は大半完成に近づいた近頃の婦人の新職業としては生命保險會社の外交員である會社側の立場からいへば女は第一給料が割安で濟む上に男の外交員にありがちな金の使ひ込み騷ぎが起らないしそれに物柔らかで臺所口から妻君を口説き落すにも勝手がよく且れだりが利かうといつた通りから採用するものらしいが採用される女の方から見ても勤務時間は大抵六七時間而かもその間は自由に外出が出來るといつた附け目があり今日の女は最早引込み思案の者ばかりでもないところから世間で心配する程もなく案外希望者も多い模様で八千代、福德等を始めとし一社二十人乃至三十人の女外交員を雇つてゐる向きが澤山出來た收入は今日のところ大概五六十圓どころであるがその外に猶ほ配當や賞與も貰はれるといふ。

一等收入のよい分を擧げると歐文タイピストでこれは職業婦人級でもチヤキ〳〵であつて百圓以上の月給はザラにある三井物産には月給百廿三圓でその他を合し月收平均二百卅圓といつた豪の者もゐるが今のところ恐らく彼の女が月給頭だらうその他月收百五十圓給のタイピストもチヨイチヨイある自動車の女車掌も大阪では新職業の部類に屬する朝から晩まで動搖の激しい車上で立ち番のお勤めは婦人の生理上何うかと氣遣はれてゐるけれどそれでも不景氣風の力に比例して志願者は隨分と出て來る模様で此の分は日給一圓が普通であるが哩手當とか臨時手當とかで結局は月收五六十圓になり女の職業としては月收は上の部類に屬すると云ふ就職の動機はいはずもがな大概のところは家庭の經濟を助ける爲めとあり中には婦人の獨立を計るためなどの嬉しい所もあるそして三十歳から四十歳までの年齢の婦人も可成りあるが彼女等の趣味娛樂と來ると女だけに却々多いやうだ即ち趣味としては文藝、思想、敎育、宗敎、科學の研究登山、娛樂としては活動寫眞、活花、仕舞、演藝、旅行、海濱散歩などである而して一般に職業婦人の敎育程度が進み隨つてその力量も大いに發達し今日では高等女學校卒業者は決して珍しい部類に這入らぬさうだ。

失業時代と敎育を受けた人

日本の失業者の洪水は殆ど英國と同じ位の百萬壽に近づいてゐると云ふことだが日本の失業振りは英國に比べて外面おとなしいに引代へその性質は頗る惡いと云ふので內務省では目下頻りにこの原因を探つてその轉換策を研究してゐる殊に日本の智識階級の就職難は世界一で一番質が惡いと云ふことだ夫れに大學や専門學校から吐き出される人が餘りに多くその弊害の酷いことに一驚に値ひする中でも醫學部とか工科とかは何うやら遣り乍らも捌けて行くが一番數が多い法律、經濟と云つたやうなものはてんで見込なしとある先づ本

年度専門學校以上の卒業生は約二萬六千人で是等の教育を受けた人が社會へ出るわけだが內譯を云へば官立大學四三〇〇、公立大學專門一六〇〇、私立大學專門一〇〇〇〇、官立醫專一五〇〇、官公立農專三〇〇〇、官公立商專一五〇〇、その他二六〇〇である。

これ等二萬六千と云ふ新卒業生の內やつと口を見付けた者は僅かに一割と見られ後の二萬三千の大部分はまだ行く所が分らぬと云ふ狀態だ政府では此種の高等教育卽ちアルヂヨア教育に八千萬圓をかけて失業者を出てゐるわけだが小學校の基礎教育はてんで顧みないと云ふ有樣で之れでは成らぬといふ所から內務省ではこの度高等教育制限といふ腹案を文部省へ持ち出すと意氣込んでゐる尙ほ此の問題は近く開かれる社會局の職業紹介第二委員會でも議せられると云ふことである。

都市勞働者の消費經濟革新

大正九年勞働運動の勃興當初賀川豐彥、今井博士たちが勞働階級の消費經濟の立場から大阪市西區靭中通三丁目に創立した消費組合共益社は世の不景氣と共に昨年の春頃一時苦境に陷つたが漸つと難關を切り拔けて現在では基礎も固まり約二千の會員を有し西區江戶堀下通五丁目一三番地に移轉して相變らず營業を續けてゐるが今度理事の改選をやつたと同時に以前から地方農民に必需品を取次いでゐる日本農民組合の代理部と提携して農村生產者から都會勞働者の臺所に都會生產者から農村小作人の家庭にと不合理な中間商人の御厄介にならず共益社の仲介によつてウンと勞働者階級の生活の負擔を輕くすると云ふ理想的な消費組合運動を計畫してゐる。

それに據れば都會から農村に送り込まれる物は肥料を筆頭に害虫驅除藥、發動機、繩なひ機等の農機、鎌、鍬、鋤等の農具、シャツサルマタ、石鹼等の雜貨類で從來の經驗によつても農具の如きは送料を入れて約半値方安くその他の物も平均四割方安價で農村勞働者の需要を充たすことが出來ると云ふことである又農村から都會に入る物は米は勿論、玉子果物、乾物類、松茸、椎茸、筍、そうめん、かんぴようと云つたやうなもので果物や茸類は平均三割方安く米は普通小賣商人から買ふものと値段の點では大差ないが質の點では話にならぬとの事である夫れなら何うして理想的な交換が行はれるかといふと農民組合の方は目下理解ある特約店の取次であるが最近或る投資家が現れて近く肥料會社を自身で經營するのみならずその他の品物の販賣店をも經營することになり農村生產物は現在でも苺は甲州聯合會、林檎は青森支部から仕入れてゐるやうに此の方法をもつと擴げて各生產地の農民組合聯合會から都會勞働者の口にといつた具合に直接に取引をし代金の支拂等は共益社と地方聯合會經營の消費組合が取引銀行を定めて遺憾なく行はれるのだといふ共益社と農民組合との此の計畫は着々實現しつゝあるが尙一方これが宣傳の爲め今井博士等が大阪市外玉造青年會館をふり出しに引續き大阪場末の勞働者町で演說會を催す筈である。

新しい試みの花嫁花婿の市

昨年七月開館した東京芝青松寺內の婦人會館では婦人寄宿職業紹介其他副業案內等色々の方面に働いて居るが取分け結婚希望の申込者が一番多く現在男女を合して百七十餘名の多きに上つて居る之等結婚希望者の男子側は會社員もあり醫師、教育家、軍人等もある婦人の方は女事務員が目立つて多いそれには婚期を逸して居る二十五六歲から七八歲のものが少くないので何とかして之が適當の一對を組合せたいと云ふので同會では結婚希望の男子七十名女子七十名を一室に集めて見合を兼

れた懇談大茶話會が催す事になつた即ち謂は花嫁花婿の市で撰取りで新婦新郎が見られると云ふ日本最初の新しい試みである主催側は「お互に理解し合つて玆に始めて會主の媒介によつて芽出度く結婚する譯です多くは中年以上ですから相當な好結果を示す自信を持つて居ます」と語り又佐藤貞子夫人は此の催しは四月二十日頃となりましよう中には不眞な又甚だ不眞面目な申込もありましたがそう云ふ方は夫々お斷りしましたと語つた。

歐洲と米國の活動映畫の差

アメリカ映畫を觀た感じと最近の歐洲映畫を觀た感じの相違が何う違ふつてか私は亂暴な斷案か知らんが「米國映畫は金のかゝつた感じだ」と云へるし「歐洲映畫は頭の掛つた感じだ」ときつぱり言へる米國式は資本の力で歐洲式は頭の力だ我々は長い間米國式の出場人員何萬人前古未曾有の大セツトそして何十何百萬弗と云ふ金の掛つた映畫を所謂「大物」として觀せて貰うて來たではないか之れを偉大な映畫の唯一の條件としてフアン諸子が無條件で受入れて居たならば米國映畫は永久に世界市場で萬々歳だ金の競爭で米國の本場に勝る國は世界中探し廻つても見つからぬ然るにどうだ今度新しく生まれ始めた歐洲映畫は普通の金をかけるこそに吝嗇ではないが何處までも製作者や俳優の頭で行つてゐるソコから芽が吹き出し芝居や文學では表現し得ない活動寫眞獨特の新表現を發見した。

フヲツシユバツクの素晴らしさ眼に見る音樂的韻律の一枚の繪を見る樣な繪畫的場面の創造、人間の動的方面の特別な表現或は靜的方面の生活の味と云つたやうな新手法が續々と生まれて來た斯うなると金の問題でなく頭一つで素晴らしい映畫を作ることが出來るそして將來どんな方面まで開拓されて行けるか之れも無盡藏だとすれば「良い映畫は頭から」と云ふ標語を出しても間違ひぢやあるまい所で面白いのは日本の映畫界だ今迄アメリカ式映畫の尻尾についてだん／＼映畫らしい映畫を作つて來た連中が「アメリカの眞似をしてゐても金がないと向ふの十分の一のよい映畫も出來ぬ」とこぼし切つてゐる所だから折こそよしと最近金がなくとも頭があれば出來ると頭をふり／＼この歐洲映畫の研究を始めたと云ふのは近頃面白い現象として御紹介すると東健而氏は語つた斯うして金の餘り掛らない頭を使つて出來る活動映畫が多くなると共に活動界も段々改良される事だらう。

大連市のみで失業者三千人

『大連市内に現在パンを求めてゐる人が三千人以上ある』と冒頭しながら大連市職業紹介所の中村五次郎氏は打續く不景氣のために失業者の多くが如何に就職にあせつてゐるかを語る『本紹介所の調査した所によると大連市内で失業してゐる人は三千人以上に達してゐます勿論この中には去月滿鐵會社の整理淘汰した新しい失業者は含んで居りませぬ之等多數の就職希望者を分類して見ると官廳、會社、銀行等の事務員即ち俸給生活を望んでゐるものが四分の二商店その他雜務をと云ふのが四分の一で殘る少數は婦人となつて居ますが不景氣のドン底にある今日の狀態では是等の人々を希望通り就職せしむる處は全くないので氣の毒なことではあるが失職者の過半は家財や衣類を賣喰ひし終には失意の人となつて旅費までも内地から取寄せて悄然と歸還するといふ狀態です飜つて三月中の當所就職について見ると男七十六名女五十四名は幸ひにパンに有付きましたが此の人々も事務員級のものは稀で男は商店の雜務女は少數の家政婦を除いては總て女中となつてゐます』と斯うして益々失業者が殖えて來るのである。

量優質劣

◆量が増すと質が惡くなると云ふことは大體において眞理である◆見給ゐ今日の通貨はその流通範圍が廣くなつて非常に量を增したが夫れと同時に質が非常に惡くなつたではないか◆現在我々の用ひて居る五拾錢補助貨は大正十三年の鑄造に成るものが多いがそれを大正五年頃の鑄造貨と比較して見ると其の質が餘程劣つて居る◆質が惡くなつた計りではなく其の量目においても劣つて居る何となく重味がない◆德川幕府時代の金貨は俗にコバンと稱した程に金の實質に富んだものであつたし其の一分銀も二分銀も明治及び大正時代の銀貨よりも質が良かつた◆銅錢でも何でも同樣で今のを昔のに比べると皆悉く惡い◆豈啻に貨幣のみならんや生活必需品の如きも今日は粗製濫造の間に合せ物が多くチョットの見てくれば可いが實質は何れも是れも怪しい物ばかりだ◆日本の商品は粗製濫造の刻印を打たれた丈け他國の商品殊に地味ではあるが堅牢なる獨逸品に比べるとヅッと質が劣る◆人形見た樣なものでも子供の玩具でも少し手荒くすると直ぐ毀れるのが日本商品の常だが獨逸品になると少し位ひ手荒くしても容易に破れない◆日本の商品が斯くの如く劣化したのは製造工業の技術が幼稚な爲でもあるが一は此頃の日本人の性質が惡狡くなつて胡魔化しばかりするからである◆眼先きの事ばかり考へて遠い先の事を考へず其場々々を旨く胡魔化して行けば可いとし茶羅ッ鋒を云つてお茶を濁すものが非常に多くなつた◆四月中來滿した滿洲に緣故の深い後藤新平子は奇言警句を盛んに連發する人だが此の人が『此頃の滿洲の日本人は當座勘定ばかりして居て總勘定を忘れて居る樣だ』と言つた◆全くその通りで之れは在滿邦人ばかりでなく現代の日本人は概してさうである◆斯樣なものが多くなつて是等の當座勘定屋が量を恃んで大いに幅を利かす社會となつたのだから日本人の實質が惡くなつたのは怪むに足らない◆人口は年々盛んに增加するが人口の量が增すに從つて日本人の質は年毎に惡くなり政界、經濟界、軍界、敎育界の人間も段々小さくなつて來た◆西鄕南洲のやうな大きな人物は今の日本には見當らない頭山滿翁が幾らかその面影を存じて居る位ゐで見渡す限り瓜や茄子の花盛りと云つた狀態だ◆型が小さくなつても質

が良ければ問題でないが此頃の補助貨のやうに型が小さくなると共に質も惡くなると云ふ人間が殖ゑては全くお話にならない◆要するに小怜悧で細工が旨くて事務的に能率を上げると云ふ其場々々の役に立つものは多いけれども人間の型が小さくなつて質も餘程惡くなつた◆大賢は愚なるが如しと云つて眞の賢者は凡夫の能く見分け得る所でない誰にも直ぐ見分け得るやうな者は淺い小川のやうな人間で眞の賢者ぢやない◆斯う考ゑて來ると歐米の民衆主義を眞似て日本が無暗に民衆主義を唱ゑるのは問題だと思ふ◆何となれば日本の民衆はまだ十分に錬られて居らず民衆を率ふる人物にも眞の賢者が少なく型も質も補助貨のやうに劣つた者が多いからである◆民衆主義は民衆を能く率ひて民衆の正しい意見と要望とを汲み取り而して之を實際化する者がなければ本物になれない◆處が民衆を率ふる眞の人物がなく寧ろ民衆主義を利用して民衆を喰物にするやうな者が多くなつた日本の今日の狀態では民衆主義の前途も甚だ心細い◆煽動政治家のおだて舂に乘つて踊つたり狂つたりするやうな民衆では民衆主義を喰物にする如何樣者にしてやられるのも當然だ◆多年の懸案だつた普選案が今期議會を通過して次の總選擧から實施される事になつたのは可いとして此點を考ゑると普選實施後の議會政治が思ひやられる◆日本人の人物の型が小さくなり其の質も劣つて來たのは詰め込み主義の敎育の致す所でもあらうし制度の罪でもあらうし又世智辛くなつた社會とその氛圍氣の爲でもあらう◆斯うして人間といふ人間が相率ひて悉く智術の人となり事務の人となれば仕事は捗取るかも知れぬ◆が全局を達觀して大所高所より事をなすと云ふ底力のある大きな人物は勢ひ少くなる◆現代の日本の政界に眞の政治家がなく經世家がないのは此の故で議員や政黨員の碌々たる余子に至りては甚だ失禮の申分ながら謂ゆる斗屑の輩に過ぎない◆政界にゴタ〳〵が多いのも到る處に下らぬ騷ぎが起るのも大人物が乏しくなつて鈍栗の背比べ連中で甲是乙非するからだ◆物質文明は總てを小さくする小さくなつても質が良ければ可いが小さくなると同時に質も惡くなつては論外だ◆質が惡く型も小さくなつた補助貨の如き人間が多くなつては此の社會も終りだ◆大人物は由來尠いものだが今日の樣に缺乏しても困る。

金にコセ付く勿れ

◎個人が金にコセ〱する樣になると墮落するが團體でも會社でも餘り金のことにコセ付くと其處に衰運が萠すものだ◎儲かるの儲からぬのと珠算勘定ばかりして居ると商人根性が起つて士人的の氣慨が失せ同時に物質的と利己的とに傾く◎個人の事でも團體又は會社の事でも國家並びに社會の事でも算數を超越して利害の外に立つ所に難有味があるのだ◎先づ軍備を見給へ軍備ほど不生産的で不經濟極まるものは無いが國際心の猶ほ甚だ發達しない今日國のためには何うしても軍備の必要があるのではない乎◎前月舳艫相含んで威風堂々大連灣に投錨した五十餘隻からの我が聯合艦隊は不生産的不經濟的の恰當な代表物た◎旗艦『陸奥』一隻の製造費が七千萬圓と聞いては滿鐵が神明町に新築した文化的施設の一たる大連醫院の如きは安いものだ◎文化事業とか社會事業とか云ふものも不生産的の不經濟なものだが之れなければ文化の發達も社會の進歩も又その改善も出來ないのである◎儲かるなら遣る儲からぬものは遣らないと云ふ當座勘定的目の子算用を以てすれば軍備は勿論のこと文化事業も社會事業も一切合切ダメと云ふ事になる◎斯うした考ゑは謂ゆる素町人根性であつて此の卑しいケチな根性が盛んになると金は出來ても心が腐り物質は殖ゑても靈魂が萎ゑて形進心退する◎形進心退は即ち衰運の兆だ呉を破つて歸つた越王の宮殿にやがて鷓鴣の聲が聞ゑ秦の始皇の阿房宮が阿呆宮となつて楚の一炬に消ゑ失せたのは此の故だ◎元來生産を物の上に限るのが大なる妄見だ眞の大生産は心から出で精神より生まれ形而上より起るものである◎儲からない金を喰ふ敎育は未來の國民を作るのだから大なる生産であり文化事業や社會事業も儲からない物ではあるが此の事業があつてこそ初めて大きな形而上的生産が期せられるのである◎經濟的生産と共に文化的生産にも社會的生産にも努めよ不生産的事業必らずしも不生産的にあらずと知れよ◎斯うした大局の見と達觀とがなく無暗と金にコセ付くと經濟的施設も消極的になり文化事業や社會事業は葬られてしまう◎大きな場所には大きく出でよ大風呂敷も擴げよ多少の損や無駄は問題でない◎無駄を厭はず損を念とせぬ位な大度量がなければ決して大きな仕事は出來ない。



結婚し得ざる女

永田新郷

南國の町には早くも柳が芽ぐみ、時々氣紛れな海風が町一杯に黄色い砂埃を立てたりして、自然の光景は餘程變つて來た。きみ子が下宿して居る家から毎日眼にするK灣の上にも、向ひの櫻島にも、紫がかつた雲が動き、遠霞が懸つて、春は忍びやかに何時の程にか訪れて來た。

彼女が或る日曜日に、温い日射しの下で、永らく病床にある愛人のことを考へながら、頻りに洗濯物をして居ると、其處へ突然細島に居る友達が尋ねて來た。

『マァTさん……貴女今頃にどうして?』

『急に逢ひたくなつたから出て來ましたの』

頭の髮をぐる〳〵巻きにして、銘仙のあらい立格子の羽織を着た、背のすらりと高いT子は、さう云つて腕に掛けたコートを靜かに上り框に置いた。

『あら、妾うつかりしちやつて、さあどうぞお上り下さい』と云つても、T子は懐しさうにきみ子の顏を

見るばかりで、急に上らうともしない。

『Tさん、妾ね、何だか貴女に逢へるやうな氣がして居たのよ』

『さう、私も隨分逢ひたかつたのよ、貴女は其後お丈夫？』

『ゑ、有難う』。きみ子は此時T子を導いて自分の居間へ入つた。

『まあ可いわね、此處から海が見ゑて……、貴女一人で借りてるの？』

『ゑ、去年の秋から』

『お母さんはヤハリ彼方（あちら）に居らつしやるの？』

『ゑ、一人（ひとり）で居りますの』

『さう、それで此の家の方は？』

『六十に近いお婆さんと、其のお孫さんになる娘さんと、それつ切りなの』

『さう、それは靜かで可いわ』。きみ子が机の周りに散らばつた本や新聞を片附けるのを、さも緩（もど）かしさうに眺めながら、T子は續けて直ぐ言つた。

『私、今度大井さんと結婚することに定（き）めちまつたのよ』

『オヤさう、それは良かつたわね、それで何時（いつ）……』

『今旅行して居るの、近い中に歸つて來ますから、其時式を擧げやうと思つてるの』

『オヤさう、それは良かつたわね、それで何時……』

『それは御目出度うさま』

『それからね、Mさんも此の五月結婚する筈なのよ、それにBさんも……』

『おや〳〵皆んな御目出度いことね』

『處で貴女はどうなさるの？あの方の病氣はまだ良くなくつて？』

『ね、まだ良くないんですつて、妾なんか獨りぼつちで暮らして行くのが可いのよ』

二人はそれから學友の噂や、勤め先の話などして、遲く晝飯を喰べた。

晝からは風が出て寒さうな空合になつた。T子は三時の便船で歸らねばと言つて間もなく立上つた。やがて二人は寒い風に髮の毛を吹かれながら砂埃の揚る道を船場の方に歩いて行つた。

風で海は荒れて居た。ギラ〳〵と光る波頭の遙か彼方には、淡い藍色の島が連なつて、其の前の方に、更に形の非常になだらかな美しい島が浮んで居る。

きみ子は遠い〳〵行手も分らぬ旅のことなど思つて幽かな哀愁を感じた。

彼女が（獨りぼつちで暮らして行くのが可いのよ）と言つたのは、愛人が惡い病氣に罹り、その爲め結婚に支障を生じたからである。T子と語つて居るうちに、彼女の頭には自分から遠ざからうとする愛人の手紙のことが不圖思ひ出されるのであつた。

（だがあの人も不徹底だわ、自分が愛するものだつたら、燒き盡したつていゝ筈だ。本當に妾と結婚して

妾を愛する眞心があるなら、たとひ肺を病んで居たつて、私に氣兼ねなどしないで可い筈だ）と、斯んなことを考へて來ると、愛人の心が寧ろ恨めしかつた。

歩きながらきみ子が考へ續けて居ると

『ねね……』と、きみ子と肩を並べたT子が不意に、而も燥いだ聲で呼び掛けた。

『貴女はあの山を思ひ出さないこと？私は今本當にあの山のことを思ふわ、お祭りの夜、あの山の杉の木立の下でお互ひに歌つたでせう』

T子は其のつぶらな視線を、遙か海の彼方に投げて、過去の思ひ出を辿るのであつた。

『皆んなで面白く歌つたわね、大井さんが此間斯う云つてよ、（もう一度學生に歸つて彼の時の三人のコーラスが聞きたいと思ふ）つて……』

大井と云ふのは其の時逢つた一人の青年で今度T子と結婚する男である。

『あの頃のことを思ふと本當に懷しいわ、みんな子供でしたのね、そして私達は、思ひ出深い學窓を出る前に、あゝした旅をして來たのね、あの郊外の草原でお菓子など嚙つたりしてね』

きみ子も誘はれて述懷するのであつた。

此時、船場の方から船宿の印を附けた男が息せきやつて來て、大きな聲で（××行の人は艀船が出ますぞ）と呼び掛けた。T子は吃驚した顏をして

此時、船場の方から船宿の印を附けた男が息せきやつて來て、大きな聲で『××行の人は艀船が出ますだ』

『では左樣なら、本當に有難う、何にも詳しく話されなかつたけれど』

『ね、たゞ貴女の幸福の過程を聞いたばかりでね』

『幸福ぢやないことよ』

『でも不幸でありやうもなしね』

『ホヽヽヽ、皮肉なのね』

それでも二人は心から笑み交はして、他の乘船する人達と一緒に、急いで波止場の方へ步き出した。T子と同樣向ふの國へ渡らうとする旅客の各々が崩れるやうに競ひ合つて小さな船に乘り込むと、やがて艀船は波止場を離れて沖の汽船に向つて漕ぎ出した。

『T子さんは今幸福の絶頂にあるのだ』。斯う思ふときみ子の胸には再び脫し切れない苦しさが萠し、自分の果敢ない境遇に泣きたくなるのであつた。

（きみ子さん、決して僕は冷酷なのではない。お前の幸福の爲めには、何物をも投げ出して居る僕ではあるが、僕の病氣と周圍の事情とがお前との結婚を許さないのだ。併しお前を愛して居る僕の心に變りはないどうか僕の執つた行爲に就いて無情だとか冷酷だとか思はないで吳れ）

斯う云つて來た愛人の手紙の事を再び思ひ出して、約束だけで報ひられない結婚、そして遂に結婚し得ない女となつたことを、彼女はいつそ咀ひたくもなつて來た。同時に（T子さん達は女らしくなつたわ）と他

の幸福を羨望するやうな氣持にもなるのであつた。

戀の前には、眞實の愛の前には、誰が純眞に其本然の女らしさに歸らずに居られやう。きみ子や彼女の友の多くが、深い思索に入り、高い理想を說いて得々として居た學窓時代から數へて、ほんの短い月日ではあつたが、皆それ〴〵にいろ〳〵の試練と苦難とを經て、如何にも女らしく育つて行くのを思ふと、きみ子の胸は更らに湧き返るのであつた。

艀船から本船に乘り移る人々が眞黑に續いた。T子は波止場に立つて居るきみ子に答へやうとして甲板の上を右へ行き左へ歩きなどして居た。

白い波が大きなうねりを立てゝ、今本船から離れた艀船を、上に下に搖り動かして居るのが遙かに見ゐる

やがてT子の乘つた汽船から汽笛の音がして船は動き出した。

きみ子はこれを眺めつゝ、(愛したい人を愛して、何の雜作もなく、好いた同志で結婚して行ける人は、どんなにか氣輕いことだらう)と思つた。そして自分はどう考へても最う愛人と結婚することは出來ないと斷念するより外に仕方がなかつた。

どんよりと雲つた空には、鷗が三つ四つ飛び、柳の木のある船宿からは、薄い烟が立ち昇つて、白魚が跳ねた程やつと出たばかりの柳の若葉を、包んでは散り、包んでは消ゐて行つた。

×　×　×　×　×　×　×

ぬた稲やつと出たばかりの柳の若葉を、包んでは散り、包んでは消れて行つた。

きみ子が伏眼勝ちに、波止場から四五丁も歩いて來た時、彼女の肩越しに

『ヤア……』と出し抜けに男の聲がした。

『まあ……』ときみ子は振り返りさま背の高い男に挨拶した。

『どうしたのです？馬鹿に元氣がなさそうですね』

『ね、ちよつと波止場までお友達を送つて來ましたの』

『それで今歸る所ですか』

『ね、貴男は？』

『僕も歸ります、一寸用事があつて出で來たんだが、それは何時でもいゝんです』

男は無雜作な言ひ方をしてもう先に立つて歩き出した。きみ子も默つて其の後に尾いた。

此の男は畵家で近頃此地に來たばかりの者である。

きみ子は、取繕はないと云ふよりも、寧ろ貧しげな男の後姿や、襟首に垂れ下つた長い髪などに、可成り注意深い眼を配つた。男はそんなことゝも知らずきみ子を振返つて見て

『時に僕はいよ〳〵行きますよ』と言つた。

何事も出し抜けに藪から棒なことを云ふのが此の男の癖である。

『いよ〳〵行らつしやるの』

『さうです、僕、此間から友人や先輩を訪ねて、いろ〳〵と工面してみて、何うなり斯うなり、やつと洋行の費用だけは出來るやうになつたんです』

男はさう云つて竹のステッキで地を叩いながら

『日本の地に居たつて片ッ端から癪に障るばかりですからね』

『さうして何時頃お立ちなさるの？』

『まだ決つては居ません』

話をしながら歩いて居る中に、相手が畫家だけに、きみ子の胸にも繪心が浮いた。さうして一日中、御飯も喰べないで、秋の郊外へ三脚を持ち廻つた事や、將來は天晴れな畫家になる希望を抱いて居た事など考へ出して、今まで哀愁に滿たされて居た彼女の胸にチラと光明が點つたやうにも思はれた。

× × × × × ×

今から云へば一年前の秋の日、それは打續いた雨の珍らしく晴れた日の事であつた。午後の陽に、地も木木の梢も明るい色彩に浸されて、高く澄んだ空には赤蜻蛉がツイ〳〵と飛んで居た。

きみ子は、行詰つた結婚に思ひつかれた頭を休めやうと思つて、其日久しぶりに絹紙を張つた。さうして彼女が春頃から考へて居た一つの構圖をその上に纒めやうとした。

その時、一人の男が彼女の後に立つて、後方に兩手を組みながら、熱心に繪を見て居た。その男と云ふの

が今きみ子と歩いて居る青年書家である。
書家の名はWと云ふ。彼は一年前に妻を失つて跡に殘された子供を抱ねて居る。Wは子供を人手に預け、帝都を後にして、此のK市に歸つて來た。きみ子と知り合ひになつてから彼はきみ子の下宿を屢々訪れた。それは繪心のある彼女を話相手にしたいからであつた。
三十になつたばかりのWと二十三のきみ子とは、さうでなくても、親しくならないわけには行かなかつた懇意になつた結果、互に隔てない口も利くのであつた。

× × × × × ×

『では來年の今頃は外國でお暮らしなさるのね』ときみ子は歩きながら尋ねた。
『さうです、佛蘭西か伊太利で乞食でもして居るでせう』
『それで坊ちやんは何うなさるお積り？』
今まで快活に話して居たWは急に言葉の調子を落して
『僕はもう日本には歸つて來ないかも知れません、それで子供は人に預けつ切にするか呉れてやるかして一人で飛び出さうと思つて居るんです』
『それは餘り無責任過ぎますわ』
『では何うすれば可いんです』

反抗的の言葉に、きみ子はまた何時もの癖だと思ひながらも、何だか急に悲しくなつた。

冷めたい風が吹いて、その風と共に、バラ〳〵と霰が降りかゝつて來た。二人は何時の間にか電車道を過ぎて雜木並木のつゞく坂道へ來て居た。きみ子の宿はK市の高臺にあつて、Wの家はそこから直ぐ近くの所にあつた。二人は默つてさつさと上つて行く。

愛人との結婚に失望したきみ子は、何か知らんが、頻りに無茶な捨鉢なことばかり云ふWに對して、憐れみの心を動かさずには居られなかつた。

『では妾、貴男のお子さんを預かりましやう、そして愛しませう、そのお母さんにもなりませう。妾は世のさま〴〵の戰の上に捨つべきものと選ぶべきものとをハッキリ思ひ分けたいんです。妾はもうどつち附かずに此上尙ほ安閑として居られないのです』

きみ子は結婚し得ざる女となつた自身を投げ出してWの前にそれだけのことを云ひたかつた。然し遙かに緊張した沈默は彼女にその餘地を與へなかつた。

『妾は本當に夫人と死に別れたあの方を愛して居るのだらうか、そしてあの方も又………』

Wと別れたきみ子は道々こんな事を考へながら下宿屋に歸つた。

× × × × × ×

妻と死に別れたWは世の人並以上に不調法と非常識な男であるが、母を持たぬ子供を抱いて居ると云ふこ

[illegible]

Wの親しい友は皆く斯んな事を云つた。

とが悲哀であり、可憐でもある。愛妻を失つたWは夜となく晝となく自棄酒を呑んだ。彼が無理から金を工面して、遠い異國に旅をしやうとするのは、寧ろ當然の歸結かも知れない。

Wの親しい友は能く斯んな事を云つた。

『W君は何んな事をしでかすかも知れない』

と。それを聞き知つて居るきみ子は、この意味において、今度のWの旅は、幼兒と其の父との尊い二つの魂の破滅だと見るより外なかつた。そして家に歸つてから

『妾はまだ彼の方を愛して居ない。然しあの滿たされる事もない空虚と、其の絶望的な悲哀の道に行暮れた人を、祈りつ、和らげつゝ、靜かに歩かせて上げることは出來る。屹度あの人の異常な性格と腕とは何等が優れたものを創るに相違ない。妾は妾の頭にも腕にも出來ないことをせめて彼の方に役立つことに依つて完成したい。妾は歡喜の前に先づその子供さんのよき小母さんになつて上げやう』

結婚に行詰つたきみ子の涙は其處まで來ねば置かなかつたのである。

夕方になつて雨は風に變つた。空には黒雲が低く渦巻いて居る。

斯うした光景を外にしてきみ子の頭には幾多のフィルムが展開された。

病み弱れる愛人の影！おちぶれ果てたWの妻！一人淋しく向ふの土地で暮らて居る母の顔！ツイ今しがた訪ねて來て直ぐ別れたT子の顔！。



草莽布衣の嘆

洛陽散人

險に臨み危に臨むに豈衆を恃まんや。
單身孤馬亂丸の中。
沙邊甲を枕にす腥風の夕。
幽夢悠々海東に到る。

幕末の長州志士、暢夫高杉晉作の詩を高らかに吟じ去つて、さて靜かに机前に對つた男、それは四十餘りの色の淺黑い威風の備はつた男である。

机の上の紙には斯んな事が書き散らされてあつた。

『青年の意氣何ぞ衰へたるや、戀の愛のと云つて小さな事に血眼となる現代青年の腑甲斐なさよ、軟文學に耽る憐れな者よ、汝等は邦家今日の大事を知らざる乎』

他の一片の紙には又斯んな事も書いてあつた。

『小智に長けし者よ、感情に囚はるゝ者よ、爾等には大智なし、大信念なし、大氣魄なし、又大精神なし何を以てか能く今日の世界を對手に邦家の大事に處するを得んや』

其處に新聞の號外が舞ひ込んで來た。

『ハヽア、政局又た混亂か、甲黨、乙黨、貴族、官僚、軍閥共が政權慾を充たしたい計りに悶ぎ廻つて居るのだ、汚ない政爭だ、蝸牛角上の政爭だ、主義も糸瓜もあつたものぢやない』

吐き出す樣にいつて、號外をポーンと投げ出し、腕を組んで須臾沈思してから

『黨利本位の政客、黨略專門の黨人、利權漁りの政治家、渠等は悉く是れ功利の徒だ、身を挺して邦家の難に赴き、身を捧げて君國のために竭す、といふ精神が渠等には爪の垢程もない』

と獨語しつゝ、やがて天井を仰いで、太い〳〵溜息を吐いた。

窓外には既に春が訪れた。木々の枝にはそろ〳〵芽が吹き出し、空には遠霞がたなびき、地には若草の頭が見ゆ、室内の籠の中では金絲鳥がいゝ聲で唄つてゐる。

渠はやがて又机に對つて、一片の紙に、更に斯んな事を書いた。

『今の青年は女の尻を追ひ廻し、エレンカイのラブ說と白村の近代の戀愛觀に共鳴し、腫れたの惚れたのと云つて大きな愛のあることを知らず、唯無暗にとち狂つてばかり居る』

そして其の最後に『さかりの付いた犬の如く猫の如き者よ、私慾の外に何物もなき者よ、經綸も抱負も理想もなき黨人政客よ』と書いた。

和風麗日、自然は平和であるけれども、人の心のみは平らかでない。

研究會の趣旨目的

滿洲社會事業研究會は其の名稱の如く研究を主とする間接機關でありますが研究と共にその研究の結果を發表し講演會その他の集會をも催ふし宣傳、鼓吹、報道、論評と相待つて實行促進に努力しますから直接に自ら實行しないでも漸次實行を促すことになります場合に依り又事業の性質によりては本會自ら實行するやうな事があるかも知れませんが本來の使命は間接的に助長、發達、進歩を計り社會問題に對する正しい理解力を一般に普及したいのであります夫れから本會は會員組織でありまして會員を別つて贊助員及び普通會員とし役員は會長一名、副會長二名、幹事長一名並に幹事若干名で外に顧問、相談役及び評議員若干名を置くことに成つて居ます評議員は贊助員の中より選擧し其の任期は二年です評議員會は會長において必要と認めたるとき又は評議員五名以上の請求ありたるとき開くのです評議員會は今日までに既に拾回開きました本會の經費は會費及び寄附金を以てこれに充て會費は贊助員每月貳圓、普通會員同上壹圓です追つて沿線重要地に支部を設けます。

研究會の組織綱領

◎露國と亞細亞諸國との條約…………東亞經濟調査局

◎支那國立銀行に關する研究…………

◎東蒙に於ける撥子…………

◎滿洲栗に關する調査…………

◎北支那貿易年報(下)…………

以上、滿鐵庶務部調査課

◎地方經營(二ノ一)…………滿鐵地方部庶務課

◎滿洲日日新聞、遼東新報、大連新聞、日滿通信、滿蒙、讀書會雜誌、海友、調査時報、滿洲建築協會雜誌、大陸、滿洲經濟時報、關東新聞、(以上は大連)◎大陸日日新聞、奉天新聞、奉天每日新聞、滿蒙經濟新報(以上奉天)◎調査彙報(長春商議所)◎大乘(上海)◎調査彙報(朝鮮總督府)◎朝鮮地方行政、京城日報、朝鮮新聞(以上京城)◎臺灣時報、臺法月報(以上臺灣)◎滿鐵東亞經濟調査局經濟資料、東洋、支那、愛國婦人、人道(以上東京)◎東亞經濟研究(山口)◎福岡日日新聞(福岡)

毎月一回發行

定價表

普通號六拾錢、特別號七拾錢

冊數	定價	郵稅
三箇月分	壹圓九拾錢	五錢
半箇年分	參圓八拾錢	郵稅共
一箇年分	七圓五拾錢	郵稅共

▲半年分及壹年分には特別號を含む▲誌代は總て前金拂の事▲郵劵代用は一割增

廣告料

等級	半頁	一頁
特等	四拾圓	八拾圓
一等	貳拾五圓	五拾圓
二等	拾五圓	參拾圓
三等	拾圓	貳拾圓

●三回以上は割引可仕候●年極めは特別に御相談可致候

●〆切りは前月二十日限り

大正十四年五月一日發行

發行人　山田武吉

編輯人　大內四郎

印刷人　太田信三

印刷所　大連市大山通　小林又七支店

發行所(電話五四二六番)　滿洲社會事業研究會

大連市松山町五番地七號

振替口座大連一二三九番

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

大正十一年八月十五日第三種郵便物認可
大正十四年五月一日發行（毎月一回）